

14.5-389



1200700655732

研究資料第6輯(其2)
 佛國國家總動員法案(1935年)
 附 米國ワーク法案
 昭和12年5月
 資源局
 国立国会図書館



14.5
389

始



シ T-21

叢 A
239

研究資料第六輯 (共ノ三)
239

佛國國家總動員法案 (一九三五年)

附 米國クラーク法案

資
源
局

叢 A
239

凡例

將來戰ハ單ニ武力ノミニ依倚スルヲ以テ足レリトセズ廣ク人的資源ノ全般ニ互ル統制運用即チ所謂國家總動員ノ實施ヲ必須ノ要件トスル而シテ此等各般ノ資源ノ統制運用ノ爲ニハ是レガ根據タルベキ法規ヲ制定シ以テ平戰兩時ノ轉換ノ圓滑ヲ期セネバナライ最近内外ノ情勢ハ國家總動員法ノ制定ヲ忽緒ニ附シ得ザルノ感ヲ愈々強カラシメルノデアツテ各國ニ於ケル立法ノ趨勢モ亦然ルヲ看取シ得ルノデアル依テ此ノ際各國ニ於ケル此ノ種ノ法規乃至法案ヲ譯出シ以テ國家總動員立法案ノ研究資料ト爲サントスル次第デアル

昭和十二年五月



866383

目次

佛國國家總動員法案（一九三五年政府提出）

第一部	提案理由	一
第二部	逐條說明	五
第一章	總則	五
第二章	人的及物的資源ノ運用	六
第三章	戰爭ノ指導及公權力ノ作用	三
第四章	資源ノ運用實施	四
第五章	特別規定	七
第三部	戰時國家一般組織法案	七
第一章	總則	七
第二章	人的及物的資源ノ運用	九
第三章	戰爭ノ指導及公權力ノ作用	八

第四章 資源ノ運用實施……………三

第五章 特別規定……………七

附 米國クラーク法案

(一九三五年二月六日上院議員クラーク氏上院提出
第二讀會終了、軍需工業特別委員會付託)

一 戰時資本發行委員會法案……………四

二 戰時資源管理法……………四

三 戰時財産收用法……………四

四 海戰危險保險局法案……………五

五 戰時貿易法案……………五

六 戰時兵役義務法案……………五

七 戰時金融會社法案……………五

第一部 提案理由

諸君

茲ニ提出シタル法律案ハ一九三五年三月二十三日最高國防會議ノ承認ヲ得タルモノナリ。

曩ニ一九二六年政府ノ提出シタル法律案ハ翌年下院ヲ無修正ニテ通過シ翌々年上院ヲ修正通過シタルモ決定表決ヲ見ルニ全ラザリキ。

一 戰時國家組織ノ工作ハ今日迄法の根據ヲ有セズシテ最高國防會議議長訓令及各省省令ニ則リ遂行セラレ來レリ。然レドモ斯ノ如キ應急的の制度ハ平時ニ於テモ既ニ幾多ノ事實上並ニ法律上ノ不便ヲ伴ヘルモノナレバ況ヤ戰時ニ於ケル不便ハ更ニ大ナルベシ。

本法案ハ一九二八年上院ニ於テ可決ヲ見タル案ヲ基礎トシテ起草シタルモノナリ。尤モ該案ハ實ニ最近ノ立法精神ヲ具現セルノミナラズ戰時國家組織ニ不可缺ナル諸規定ヲ悉ク網羅シタルモノナリシモ、新法案ヲ起草スルニ當リテハ、一面一九二八年以來立法部及行政部ニ於テ新ニ制定セラレタル諸法令即チ一九二八年ノ徵兵法、一九三五年ノ徵發法、空軍省、遞信省、海運省ノ設置、一九三五年ノ攻勢防禦法、資源ノ準備乃至ハ利用ニ關スル最高國防會議議長ノ訓令又ハ省令等ヲ考慮スルノ必要モアリ、他面數省ヨリ經驗上有效ナルモノトシテ該案ノ一部變更ヲ求メラレタルモノモアリタリ。以上種々ノ事實及要望ヲ考慮シ決定シタルモノガ本法案ナリ。

二 將來戰ノ特色ハ實ニ其ノ突發的ナルコトニ在リ從ツテ單ニ大戰當時ニ於ケル如キ事情ヲ目途トシテ國力ノ準備ヲ行フ

ハ甚シク危険ナルモノト謂フベシ。唯將來戰ノ對策トシテハ突然ノ攻撃ニ依リ急速ニ落着ヲ見ルトモ將又長期間ノ戰爭ニ至ルトモ國家トシテハ出來得ル限り短期間内ニ國防ノ爲ニ全資源ノ威力ヲ發揮シ得ルヲ要ス。唯其ノ實行ハ事情ニ應ジテ決定セラルル所ナルベシ。

斯カルガ故ニ將來戰ノ形態乃至ハ期間ノ長短ハ之ヲ別問題トシ戰時ノ國家組織ヲ如何ナル場合ニ於テモ國ノ全資源ヲ合理的ニ運用配給シテ軍隊及國家ノ需要ヲ満足セシメ得ル様準備スルヲ第一ノ眼目トセザルベカラズ。

斯ノ如ク國防ノ爲ニ全活動力ヲ協力セシメントセバ平時ニ於テ自由及競争ノ制度ノ下ニ在ル全領土ニ互リ強力且統一の指揮從テ又國家ノ強力ナル干渉ヲ必要トスベシ。之即チ「全」努力ナル必須條件ノ存スル所以ナリ。然レドモ斯ノ如ク國家ノ任務ヲ擴張スルトキハ戰時ノ異常ナル狀態ノ下ニ於ケル國家ト國民トノ關係及國民ノ權利義務ニ法的根據ヲ與ヘ且又公權力ヲシテ平時ト異ル作用ヲ營マシムルニ適スル様考慮スルヲ要スベシ。

以上ノ理由ニ因リ戰時ニ於ケル國ノ物的及精神的全資源ノ運用ヲ規定スルコト、人又ハ財産ニ付國家ト國民トノ間ニ締結セラルベキ契約ノ性質ヲ定ムルコト、公權力ノ組織及行政行爲ニ關スル重要ナル規定ヲ定ムルコト等ヲ以テ本法案ノ本質的目的トセリ。

三 第一章「總則」ハ我國法ニ於テ戰時國家組織ノ原則其ノモノヲ明記スルヲ目的トス。國防ニ關スル現行法ハ殆ド専ラ軍事的努力ニ關スルモノナルニ反シ本法案ニ於テ規定スル所ハ全努力ニ關スルモノナルヲ以テ國家的全資源ノ運用ハ軍事動員ト同列ニ於テ法的根據ヲ有スルニ至ルベシ。而シテ本法運用ニ關シテハ軍部各大臣ガ優先權ヲ有スト雖モ他ノ各大臣モ亦其ノ管轄内ニ於テ戰時ニ對スル準備ニ付責任ヲ有スルモノナリ。

第二章ハ「人的及物的資源ノ運用」ヲ規定ス。

人員ニ付テハ十八歳以上ノ男子タル總テノ佛蘭西人ヲ徵發スルコトトシ之ニ對スル賠償トシテハ手當又ハ給料ノミヲ給與スルコトトセリ。

徵兵法ニ於テハ既ニ此ノ義務ヲ認メタルモ此ノ原則ヲ婦人及子供ニ迄擴張スルハ聊カ弊害アルモノト認メタリ。

國家ガ個人ノ財産ヲ使用スルニ付テハ組織的徵發制ト絕對自由制トノ中間制度ヲ採リ、個人ガ國家ニ對シテ爲ス給付ニ依リ利益ヲ得ルハ原則トシテ認メザルモ本法案ニ於テハ殊更ニ之等ノ給付ハ協定ニ依ルベキモノト爲シ徵發ニ依ルハ協定ノ成立セザル場合ニ限リタリ。又實際ノ運用ニ當リテハ協定ニ依リ盡力スル個人又ハ企業者ノ爲有利ニシテ個人ノ自發性ヲ獎勵スルガ如キ制度ヲ採ルヲ期スルナリ。

以上ノ如キ原則ニ基キ各種ノ國家ノ行爲ハ國家總動員ヲ準備スルヲ目途トシテ行フ。而シテ其ノ完璧ヲ期スルニハ當局ニ於テ總テノ事情ニ付豫メ知悉スルヲ要スト認メタルヲ以テ政府ニ對シ平時ヨリ必要ナル調査ヲ爲スノ權限ヲ付與シタルナリ。第三章「戰爭ノ指導及公權力ノ作用」ハ出來得ル限り公權力ヲシテ戰時ノ異常ナル事情ニ適應セシムルヲ目的トス。然レドモ斯ノ如キ規定ヲ設ケ以テ極度ニ法律上ノ明確性ヲ得ントスルハ、若干ノ原則ハ大體ニ於テ動カザルモ其ノ他ノ重要ナル要素ハ狀況ニ依リ左右セラルル戰時ニ於テハ無意味ナルコト明ナルベシ。此ノ故ニ本法案ニ於テハ政府ト司令權トノ關係ニ付單ニ政府ハ戰爭ヲ指導シ、總司令官ハ軍事行動ヲ指揮スルモノナルコトヲ明カニスルニ止メ、職務執行ニ適スル政府及司令權ノ組織、事件ノ程度等ハ皆大統領令ニ一任セリ。

本法案ニ於テハ戰時ニ於ケル立法部ノ作用、特ニ國會ノ監督權ニ關スル限リ上院案ヲ取入レ、國會議員ハ動員ニ當リテモ

依然其ノ職務ニ留ルヲ原則トスルモ、上下各院ハ各其ノ規則ヲ以テ動員部隊ニ屬スル議員ノ地位ヲ定ムルモノトセリ。

第四章「資源ノ運用實施」及第五章「特別規定」ハ圓滑ニ正規ノ準備ヲ爲シ得ル様中央及外地ノ行政組織ヲ規定セントスルモノナリ。此ノ目的ヲ以テ數省ノ需要スル資源ノ探査、生産ニ關シ各省間ニ衝突ノ生ズルヲ豫防スル爲一大臣ヲシテ各種類ノ資源ニ付其ノ蒐集、配給ノ手段ヲ講ズルノ責任ヲ負ハシメタリ。即チ「需要省」ノ利害ヲ知り得ル「供給擔當省」ナル觀念ヲ以テ組織ノ根本トセリ。

又同様ノ目的ヲ以テ通常ハ數省ノ管轄ニ屬スル國家ノ作用ヲ一大臣ヲシテ管理セシムルコトトセリ。即チ陸軍大臣、海軍大臣及空軍大臣ニノミ屬スル陸軍、海軍及空軍ノ行動、平常ハ内務大臣ニノミ屬スル公ノ秩序ニ關シテハ問題ナキモ、外務大臣ノ管轄ニ專屬スル對外處置ニ關シテハ第三章ニ於テ規定シタリ。又第四章ニ於テハ運送、通信、食糧、輸出入、勞力、財政銀行ニ關スル處置、情報、科學的調査研究及領土内ニ於ケル保護處置ニ付テ規定セリ。以上ノ各事務ハ一大臣ノ指揮スル所ナルモ先ニ述ベタル如ク法律ヲ以テ戰時ニ於ケル政府ノ組織ヲ決定スルヲ避ケントセバ或種ノ事務ニ付テハ其ノ主務大臣ヲ明示セザルヲ必要ト認メタリ。故ニ唯其ノ指定ヲ爲シ得ルモノニ付テノミ規定セリ。

種々ノ活動力 發動一便ナル地方的準備ハ縣ノ範圍ニ於テ之ヲ行フコトトシタルヲ以テ知事ノ任務ハ重大ナルモノヲ加フルニ至レリ。

最後ニ總テノ領域ニ於テ遂行セラルル準備ヲ承認シ且定期ニ之ヲ整理スルハ最高國防會議ノ任務トス。最高國防會議ハ毎年此ノ準備狀況ヲ審議シタル後共和國大統領ニ對シ其ノ報告ヲ爲スモノトス。同様ノ趣旨ヲ以テ交通、通信、飛行場、動力源ノ整理等ニ關スル國家裝備ノ一般の計畫モ亦最高國防會議ノ審査ニ付スルモノトセリ。

現在ノ國防組織工作ノ進捗狀況ガ如何ナル程度ニ在ルカヲ問ハズ、事實上ノ狀態ヲ法律上ノモノト爲シ、爾後必要ナリト認メラレタル處置ヲシテ義務的ナラシムルノ問題ヲ存ス。唯此ノ法律案ガ可決公布セラレタルトキニ於テノミ命令ト相俟チテ支障ナク國家組織ヲ遂行處理スルコトヲ得ベシ。
以上説明シタル所ガ本法案ノ目的トスル所ナリ。

第二部 逐條說明

第一章 總則

第一條ハ平時ヨリ戰時組織ノ計畫ヲ準備スルノ義務アルヲ明ニシ、此ノ計畫ヲ實施スル場合ヲ定ムルモノナリ。而シテ其ノ場合トハ攻撃ヲ行フベキ場合、攻撃ヲ受クルノ虞アル場合及國際聯盟規約ノ定ムル場合ナリ。

第七條ハ本法適用ノ場合ヲ限定スル部分ニ付第一條ヲ補足スルモノナリ。

第二條（元上院案第二條）ハ政府ノ準備義務ヲ規定ス。

第三條（元上院案第三條）ハ軍事法規ノ規定スル軍事動員ト戰時國家組織ニ關スル處置トヲ區別スルノ必要アルヲ認メタルヲ以テ之ヲ置ケリ。同様ノ意味ヲ以テ專ラ陸軍、海軍及空軍ノ各大臣ノ關係スル準備事務ハ之ヲ前記各大臣ノ管轄ニ屬セシメタリ。但シ第三條、第三十七條及第四十條ニ依リ他ノ諸大臣ニ付與セラレタル軍隊維持ニ關スル權限ハ戰時ニ於テモ依然

之ヲ存續セシムルモノナリ。

六

第四條（上院案ニ追加シタルモノ）ハ國防ノ一部タル防空 關スル規定ナリ。防空ハ領土防空總監部（一九三一年二月九日附大統領令）ヲシテ守勢防禦組織法（一九三五年四月八日附）ニ依リ或程度自治的ニ行ハシム。

第五條ハ下院ノ議決シタル法案第三十八條ト上院ノ議決シタル法案第三十三條及第五十二條トヲ合一シタルモノニシテ各大臣ヲシテ各其ノ關係スル範圍ニ於テ戰時國家組織ノ處置ノ準備及實施ニ付其ノ責ニ任ゼシムルナリ。

本條ハ軍事行動ノ特殊ナル要求ヲ容認シテ軍部各大臣ニ資源ノ運用ニ關スル優先權ハ之ヲ與フルモ要スルニ全努力ノ原則ヲ表明シタルモノナリ。

第六條（上院案ノ元ノ第四條）ハ最高國防會議及其ノ附屬機關ノ存置ヲ法定シ政府ノ決定ヲ導クニ必要ナル手段ヲ政府ニ與フルモノナリ。又最高國防會議議長ノ下ニ研究機關ヲ直屬セシムルハ議長ヲシテ遺憾ナク整理ヲ行ハシムルヲ期スルナリ。

第二章 人的及物的資源ノ運用

第一章ハ戰時國家組織ノ準備義務ヲ定メタルモノナルガ第二章ハ此ノ義務ノ法律の性質及效果並ニ義務不履行ノ場合ノ制裁ヲ定ムルモノナリ。

國家ハ協定及徵發ノ二方法ニ依リ戰時ニ於ケル其ノ需要ヲ充スコトヲ得。

第八條ハ上院案ノ元ノ第六條ニ基クモノニシテ官署又ハ國ノ利益トナルベキ事業、營造物ニ使用シ得ベキ十八歳以上ノ男

子タル國民ヲ徵發スルノ權限ヲ官憲ニ付與スルモノナリ。而シテ此ノ徵發ハ單ニ兵役ノ義務ナキ國民ニ止ラズ原則トシテ兵役義務アル者ト雖モ現ニ軍部官憲ニ使用セラレザル者ニモ及ブモノトス。此ノ意味ニ於テ本條ハ軍事徵發ニ關スル一八七七年七月三日附法律及一九三五年一月二十一日附法律ヲ擴張シ一九二八年三月三十一日附ノ徵兵法（其ノ第二條ニ於テ一般國民ノ徵發ヲ規定ス）ヲ明確ナラシメタルモノト謂フベシ。

以上ノ個人ニ對スル徵發ノ他、國ノ需要ヲ充足スルニ必要ナル事業ニ屬スル人員全體ニ付集團的徵發ヲ爲スコトヲ規定ス。同様ノ趣旨ヲ以テ公務員タリシ者ヲ其ノ退職後五ケ年間官公署ニ於テ使用シ得ルコトトシタルハ戰時ニ於テ公務ヲ進捗セシムル爲必要ナルモノト認メタルナリ。但シ此ノ場合ニ於テモ動員セラレタル者ハ軍隊ニ復歸セシメ又特別充用ノ場合ハ限定セラル。

第九條ハ上院案ノ第七條ヨリ出デタルモノニシテ徵發セラレタル人員ニ給與スベキ報酬ヲ規定ス。之等ノ者ハ手當又ハ給料ヲ請求スルノ權ヲ認メラルルノミナルモ賞與金ヲ與ヘラルコトアリ。更ニ統一ヲ得ル爲報酬ハ國ノ取引ニ於ケル勞働條件ニ關スル一八九九年八月十日附大統領令ヲ適用スル爲ニ調製セラレタル正常ニシテ一般的ナル給料ノ明細書ニ基キ定メラルルコトヲ明ニシタリ。而シテ知事及勞働省ノ地方官ヲシテ其ノ實施ニ當ラシム。

第十條ハ上院案第八條ヲ殆ド其ノ儘取入レタルモノニシテ行政官廳ヲシテ人員ノ徵發準備ヲ爲サシムルモノナリ。徵發スルコトヲ得ル國民ニ對シ毎五年ノ國勢調査ニ際シ其ノ現在又ハ過去ノ職業ヲ申告セシムルハ以テ各縣知事ヲシテ軍部ノ地方官憲及勞働省官吏ト協力シテ國防上有益ナル營造物ニ對スル人員ノ配置ヲ準備シ其ノ效果ヲ確實ナラシメンコトヲ期スルナリ。但シ此ノ場合ニ於テモ軍事上必要ナル營造物ニ優先權ヲ認ム。

一九二八年三月三十一日附徵兵法第五十六條ハ既ニ軍部當局ニ對シ兵役義務アル國民ヲシテ其ノ職業又ハ能力ニ關スル報告ヲ爲サ、ムル權限ヲ付與シタリ。故ニ本法案第十條ハ該規定ヲ擴張補充シタルモノニ過ギズ。

第十一條（上院案第九條ヲ修正シタルモノ）ハ徵發人員ノ充用ニ關スル上訴ヲ開キタルモノニシテ、此ノ目的ヲ以テ縣委員會ヲ設ケタリ。縣委員會ハ知事ヲ以テ議長トナシ勞務者團體及事業主團體ノ各同數ノ代表者ヲ含ムモノニシテ徵發シタル勞力ヲ監督統制シ無償ヲ以テ充用ニ關スル關係人ノ請求ヲ審理ス。但シ給料ノ決定ハ第九條ニ從ヒ行ハルルモノニシテ縣委員會ハ之ニ關與スルコトナシ。

知事ハ通常ハ徵發官廳ナルモ又議長トシテ最善ノ方法ニ依リ此ノ仲裁任務ニ當リ且事務ヲ整理ス。斯ノ如キ特別上訴ノ途ヲ開クト雖モ現行法ノ認ムル上訴ハ之ヲ妨ゲズ。

第十二條（上院案第十條）ハ兵役義務ヲ有セズ且其ノ現在ノ職務ガ緊要ナルモノニ非ザル總テノ者ヲシテ國ノ爲有益ナル營造物又ハ官公署ニ於テ働クノ契約ヲ締結スルヲ得シムルモノナリ。而シテ之等ノ者ヲ使用スルハ國家ト個人トノ契約ニ基クモノナルモ行政官廳ハ何時ニテモ此ノ契約ヲ解除スルコトヲ得ルナリ。又個人ハ平時ヨリ契約シタル場合ニ於テノミ毎五年ノ國勢調査ノ際ニ之ヲ解除スルコトヲ得。此ノ方法ニ依リ雇入ヲ爲スニ付テハ徵發シ得ベキ法定年齢ヲ有セザル男子及女子ノ團體ノ特別ナル好意の援助ヲ求ムレバ徵發ヲ更ニ完全ナラシムルコトヲ得ベシ。契約締結ノ態様ニ付テハ本法案 規定ナキ限り第二十二條ニ依ル命令ヲ以テ之ヲ定ムルナリ。

第十三條（上院案第十一條ヲ取入レタルモノ）ハ外國人ニシテ佛蘭西國ノ爲活動スル機關ニ協力センコトヲ書類ヲ以テ願出デタル者ヲ使用スルコトヲ規定ス。本條ハ又現在既ニ效力ヲ有スル外國人ノ勞力ノ動員準備ニ關スル最高國防會議議長ノ

訓令ニ法的根據ヲ與フルモノナリ。

第十四條ハ上院案第十二條ヲ實質的ニ取入レタルモノニシテ戰時國家ニ於テ必要トスル給付ニ關スル規定ナリ。出來得ル限り活動力ノ正常ナル發動ヲ期スル爲國家ハ原則トシテ協定ニ依ルベキモノニシテ唯協定不能ナル場合ニ於テノミ一八七七年七月三日附法律ノ擴張適用ニ依リ徵發ヲ行フモノナリ。但シ以前兩院ノ議決シタル所ニ從ヒ協定ノ場合タルト徵發ノ場合タルトヲ問ハズ給付ニ依リ利得ヲ得シムルハ總テ之ヲ許サザルコトトセリ。實際ニ於テハ先ノ大戰ニ於テ實行シタル制度ヨリ生ジタル經濟的、財政的、社會的及道義的ノ惡影響ハ將來ニ於テハ之ヲ避クルノ必要アリト認メタルナリ。

兎モ角、協定ニ依ルヲ一般法則トシ徵發ハ制裁トシテ又ハ必要已ムヲ得ザル場合ニ於テ之ヲ行フベキモノナルガ前者ニ依ル給付ニハ後者ニ依ル給付ニ比シ若干ノ利益ヲ附スベク、從ツテ又戰時ニ於テ履行シ得ル様契約ヲ準備スル爲ニハ此ノ利益ハ豫メ明示スルヲ必要トス。

第十五條ハ上院案ノ元ノ第十三條ニシテ協定ニ依ル給付ニ對スル報酬ヲ詳細ニ規定スルモノニシテ次ノ三箇ノ場合ニ分ツ。

- 一 個人ニ屬スル不動産ヲ國家ガ占有スル場合 此ノ場合ニ於テハ資本ニ對スル報酬ノミヲ認ムベク勞働ニ對シテハ之ヲ認メズ。從ツテ所有者ニ支拂フベキ報酬ハ投下資本ノ利子ニ相當スル額（其ノ時ニ於テ發行セラレタル國債ノ利率ニ依リ計算ス）ヲ最高限度トス。但シ其ノ維持費ハ當然占有者即チ國ノ負擔トス。
- 二 國家ガ農産物ヲ取得スル場合 價格ハ動員前ノ相場ヲ基礎トシ此ノ相場ニ變動ヲ及ボスベキ戰時事情例ヘバ勞働力、原料等ノ騰貴ヲ考慮シテ之ヲ定ム。
- 三 國家ガ工業品ヲ取得スル場合 取引ハ動員前ノ相場ヲ基礎トシ戰時事情ニ起因スル増價又ハ減價ヲ考慮シテ之ヲ行

フ。本規定ハ國家ノ爲ニ營マルル事業ニ對シ國家ガ技術上及會計上ノ監督ヲ行フコトヲ明示ス。

協定ハ徵發ニ依リ使用セラルル者ニ對スル補償、手當、給料等ノ決定標準ハ之ヲ統一スルノ必要アリ。故ニ本條ハ此ノ點ニ關シテハ第九條ニ依ルベキコトトセリ。但シ自發性ヲ獎勵シ能率ヲ増進セシムル爲協定ニ依リ作業スル營造物ニ對シ其ノ發明及生産ニ付獎勵金ヲ與フルコトトセリ。獎勵金ニ關スル細則ハ命令ニ讓リタルモ專ラ當該營造物ニ於テ使用セラルル者ニ與フルナリ。

事業ニ投下シタル資本ニ付テハ國債ノ利子ト同様ニ算出シタル利子ヲ以テ報酬トス。此ノ外建物、器具等ノ損耗、破損ハ國家ニ於テ負擔ス。

若シ資本ノ算定又ハ取引ノ實行ニ付國家ト經營者トノ意見一致セザルトキハ民事訴訟法第三編ニ定ムル仲裁裁判ヲ請求スルコトヲ得ルナリ。協定ニ依リタル當事者ニ仲裁裁判ノ請求ヲ許スハ解決ノ速ナルコトノ望マシキ問題ニ付實行上ノ利益ヲ認メ得ルナリ。此ノ原則ハ既ニ一九〇六年四月十七日附法律第六十九條ニ依リ供給品ノ取引ニ關シ認メラルル所ナリ。

第十六條ハ元上院案第十四條ニシテ財産權ノ徵發ヲ規定ス。國會ハ從來ノ討議ニ於テ徵發ハ原則トシテ軍事徵發法ノ定ムル所ニ依リ行フベキコトヲ明ニスルコトヲ要求セリ。然レドモ本法案ハ三點ニ於テ該法律ヲ補足セリ。即チ第一ニ軍部官憲ノミノ有シタル徵發權ヲ各大臣ニ付與シ（第二十條）、第二ニ一定種類ノ給付又ハ財産權ノ使用ニ對スル補償ニ付新規定ヲ定メ（第十七條乃至第十九條）、第三ニ此ノ補償規定ヲ軍部官憲ノ命令シタル徵發ニモ適用スルコトトシタリ（第二十一條）。故ニ結局ニ於テ第二十二條ニ依ル命令ヲ以テ本法案ノ規定ニ適合スル様軍事徵發法ノ規定ヲ適用スルコトトナルベシ。

第十六條ハ又徵發ノ實施ニ付或種ノ國際協定ニ關シ一ノ留保ヲ爲セリ。而シテ之ハ主トシテ一七四二年八月二十二日ノ佛丁條約及一八六二年二月七日ノ佛西協約ヲ意味ス。

一八七七年七月三日附法律第三十五條ニ規定スル各地ニ於ケル船舶ヲ徵發スルノ權ニ關シテハ、公海又ハ外國領海ニ在ル海運會社ノ船舶ヲ徵發スル場合ニハ海運會社ノ所在地ニ於テ徵發ヲ爲スヲ政府ニ許シタル一九三五年一月二十一日附法律ノ適用アルヲ明ニスルヲ必要ト認メタリ。

第十七條ハ上院案第十五條ヲ取入レタルモノニシテ補償額ノ評價方法ヲ規定ス。此ノ點ハ一八七七年ノ軍事徵發法第二條ヲ補充シタルモノナリ。其ノ理由ハ同法ノ施行ノ結果其ノ第二條ガ必ズシモ明瞭ナラザルヲ認メタレバナリ。一九一七年十月三十一日ノ內閣訓令ハ給付ノ「價格」ノ何タルカニ付明ナル定義ヲ下シ其ノ不明確ヲ補ヒシガ此ノ定義ハ既ニ判例ノ認め居リシ所ナリ（一九一七年三月六日破毀院判決）。此ノ定義ハ又上院案ニ於テモ採用シタル所ナルヲ以テ本法案ニ於テモ亦之ニ倣ヒタリ。而シテ其ノ理由ハ最近ノ大戰ニ際シ幾多ノ決算ノ基礎トナリ其ノ後永年ノ慣習ニ依リ固定セラレタルモノト認メタルガ故ナリ。

本條ニ所謂評價委員會ハ軍事徵發法第二十四條ニ定ムル委員會ト同一ノモノナリ。但シ特別評價委員會ト稱スルハ特許權、免許事業權ノ徵發等特別ノ場合ニ於テ必要アルトキ組織スルモノトス。而シテ特別評價委員會ハ決定委員會タル各縣ノ評價委員會ノ調査機關タルノ職務ヲ有スルモノニシテ唯發言權ノミヲ有ス。

第十八條ハ上院案ノ元ノ第十六條ニシテ工業施設及商業施設ヲ國ノ直接財産管理ノ下ニ於テ經營スル爲國ニ對シ之ヲ徵發スルノ權限ヲ與フルモノナリ。此ノ場合ニ於ケル賠償額ハ租稅ヲ控除シタル最近五ヶ年ノ純益ノ平均額ヲ最高限度トス。他

方第十九條（上院案第十七條）ハ第十八條ノ場合ノ賠償額ヲ評價スル特別委員會ニ付規定ス。但シ其ノ評價ニ基キ決定ヲ爲ス者ハ關係大臣トス。

第二十條（上院案第十八條）ハ從來軍部大臣ノミ有シタル徵發權ヲ全大臣ニ付與スルモノナリ。此ノ擴張ハ全努力主義及國防組織ニ於テ全大臣ガ責任ヲ有スベキコトノ一表現ナリト見ルコトヲ得ベシ。

第二十一條ハ上院案第十九條ニ相當スルモノニシテ軍事徵發法ヲ補充セルモノナリ。即チ同法ニ於テハ給付ハ其ノ價格ニ相當スル賠償額ヲ請求スルノ權利ヲ發生セシムルコトヲ明ニスルニ止ルモ本條ハ賠償額算定ニ關スル新規定ヲ之等ノ給付ニ付テモ適用スルコトトシタリ（第十六條及第十七條ノ說明參照）。

第二十二條（元上院案第二十條）ハ協定又ハ徵發ニ關スル本法案ノ第八條乃至第十九條ノ規定ノ態様ハ命令ニ依リ定ムベキコトヲ規定セルナリ。其ノ末項ハ人員徵發權ノ濫用ニ對シ補足的保證ヲ與フルヲ目的トセリ。但シ其ノ意味ハ特別裁判權ヲ創設スルニハ非ズシテ當事者ヲシテ命令ニ定メラルル免除ノ場合ニ該當スルモノナルコトヲ主張セシメ以テ速ニ應急的決定ヲ得ントスルナリ。

第二十三條ハ上院案ノ元ノ第三十一條ニシテ大戰中及大戰後大ニ能力ヲ發揮シタル徵發中央委員會ニ法的根據ヲ與ヘテ之ヲ復活セシメントスルナリ。此ノ委員會ハ過去ニ於テ爲シタルト同様全國ニ互リテ行ハルル徵發ニ關シ整理、統一及監督ヲ爲スヲ目的トス。

第二十四條ハ上院案第二十二條ト同様政府ヲシテ平時ヨリ戰時必需資源ノ調査ヲ行ハシムルモノナリ。而シテ調査ノ祕密ヲ保證スル爲ニハ特別規定ヲ設ケタリ。

第二十五條及第二十六條ハ徵發ヲ受ケタル者又ハ公務員ガ本法ニ違反シタル場合ノ制裁規定ナリ。集團的ニ徵發シタル營造物又ハ事業ノ従業員ニ付テモ亦同様ニ適用アルモノトス。

徵發ヲ受ケタル者ノ義務不履行ノ罪ハ軍事徵發法ニ於テハ軍事裁判權ニ服スルモノトセラレタルモ本法ニ於テハ其ノ罰則ニ因リ戰時ニ於ケル此ノ種ノ罪ハ普通法ノ裁判權ニ服スルコトトナレリ。

第三章 戰爭ノ指導及公權力ノ作用

第二十七條第一項ハ政府員及國會議員ハ動員ニ際シテモ依然其ノ職務ニ留ルコトヲ規定セル上院案第二十五條ヲ取入レタルナリ。動員セラルベキ議員ノ地位及委任事務實施ノ條件ヲ定ムルハ固ヨリ上下各院ノ權限ニ屬ス。

第二十八條乃至第三十條ハ議會ノ監督權行使ニ關スル規定ニシテ其ノ監督事項及態様ヲ詳細ニ規定セルモノナリ。之等ノ規定ハ上院ノ可決シタル所ナルモ大戰ノ經驗ヨリ得タル結論ヲ直接ノ根據トス。

第三十一條及第三十二條（元上院案第二十九條）ハ豫算ニ關スル處置ヲ規定ス。此ノ處置ハ大戰初期ニ於テ必要アリタルヲ以テ不完全乍ラ一九一四年八月五日ノ應急的法律ヲ以テ規定セル所ナリ。本法案ニ於テハ政府ガ國會閉會ノ場合ニ於テ大統領令ヲ以テ國防上必要ナル經費ヲ支出スル場合ノ條件及戰時豫算規則ニ付規定セリ。

第三十三條及第三十五條ハ原則トシテ上院案第三十條乃至第三十二條ニ相當ス。然レドモ戰爭遂行上必要ナル手段ノ分配ハ政府ニ於テ總司令官ヲ標準トシテ行フベク、策戰地ヲ標準ト爲サザルコトヲ明ニスルヲ要スト認メタリ。但シ將來ニ於テ

ハ自治的ナル空軍ノ行動方屢々陸軍及海軍ト同一ノ策戰地ニ於テ行ハルルコトアルハ豫想シ得ル所ナリ。又司令組織及軍事行動ノ整理方法ハ大統領令ヲ以テ規定スベキモノニシテ法律ヲ以テ豫メ規定スルコトヲ得ズ。要スルニ狀況ト人ノ問題ニ歸着スベシ。

第三十四條ハ下院ノ議決シタル法案ノ第十七條及第十八條ヲ取入レタルモノナリ。其ノ目的ハ政府ニ於テ必要トスル業務ノ爲戰時ニ際シ政府ヲシテ最高國防會議及其ノ研究機關ヲ使用セシムルニ在リ。而シテ此ノ目的ノ爲ニ最高國防會議及其ノ研究機關ハ平時ヨリ準備ヲ爲シ置クモノトス。

平時ニ於テ國防事務ノ準備及整理ノ任ヲ有スル最高國防會議及其ノ研究機關ガ戰時ニ際シ之ガ實行ニ付政府ヲ補佐スルハ必要ナルコトト認ム。然レドモ其ノ組織ノ如何ヲ問ハズ決定權其ノモノハ政府ニ專屬スルコトハ當然ナルモノトス。

第三十六條及第三十七條ハ上院ノ先ニ可決シタル所ニシテ（元上院案第三十四條及第三十五條）各省ニ於ケル國防事務ノ組織ヲ規定スルモノナリ。

第三十八條ハ對外處置ニ關スルモノニシテ保護國ノ法制ヲ本法ニ適化セシムルコト、性質ノ如何ヲ問ハズ總テノ遣外使節（其ノ法的根據ハ各省訓令ニ依リ既ニ定メラレタル規定ニ存ス）、敵國トノ取引、交通ニ關シ發セラルベキ閣令ニ依リ定メラルル處置ノ實施ニ關スル承認及統制、政府ニ對シ國際聯盟規約ノ豫定セル經濟的及財政的制裁ノ實施ヲ提議スルコトニ關スル外務大臣ノ權限ヲ規定ス。

第四章 資源ノ運用實施

本章ニ於テハ執行官廳ノ相互ノ權限ヲ規定セントス。

本章ノ規定ハ異ニ原則トシテ兩院ノ承認ヲ得タル所ニシテ現行組織ノ基礎ヲ爲スモノナリ。

第三十九條（元上院案第三十七條）ノ定ムル所ニ依リ各省ハ平時ヨリ一ノ特別機關ヲ指定シ且必要ナル計畫及日誌ヲ作製ス。此ノ特別機關ハ動員ノ場合ニ於テ其ノ省ノ執ルベキ處置ヲ準備スルノ任ヲ有スルモノナリ。而シテ一九三〇年以來此ノ機關ノ組織ノ態様ハ最高國防會議議長ノ訓令ニ依リ既ニ明ニセラレ居レリ。

本條ハ又各省ガ戰時ニ際シ國ノ利益トナルベキ生産ニ關シ平時ヨリ適當ナル事業主ト協定ヲ締結スベキコトヲ規定ス。此ノ種ノ協定ハ準備事務ノ中最モ效果的ナルモノナルベシ。此ノ點ニ關スル第三十九條ノ規定ハ應急的ニ適用セラルルモノニシテ最高國防會議議長ノ捺印ヲ以テ發セラルル工業動員ニ關スル訓令ニ法的根據ヲ與フルモノナリ。

第四十條乃至第四十四條（元上院案第三十八條乃至第四十二條）ハ嘗テ國會ノ議決シタル所ニシテ一資源又ハ一種類ノ資源ノ蒐集又ハ生産ニ關スル處置ヲ一省（供給擔當省）ニ於テ統轄シテ政府ノ指令ニ從ヒ之ヲ他省（需要省）間ニ配給セシムルコトヲ規定スルナリ。各供給擔當大臣ハ需要省ヲ代表スル事業主及勞務者ノ合同諮問委員會ノ補佐ヲ受ク（第四十三條）。本法案ニ於テハ資源ノ生産及消費ノ條件、必要アルトキハ課税及消費日量決定ニ至ル迄命令ヲ以テ規定スルノ權限ヲ政府ニ付與シ且此ノ命令違反ニ對スル制裁ヲ規定ス。命令ノ中必要ト認メラレタルモノニ付テハ爾來各省委員會ニ於テ其ノ準備ヲ爲シ來レリ。

又本法案ニ於テハ資源ノ蒐集及配給作業ニ付生産者團體及消費者團體ノ協力ヲ求メ得ルコトヲ規定セリ。而シテ既ニ若干ノ購買團體ガ組織セラレタリ。

第四十五條（元上院案第四十三條）ハ運輸通信ニ關スル規定ナルガ、一九二九年十一月三日海運省及遞信省ノ設置ヲ見タルヲ以テ以前國會ノ議決シタル所トハ多少ノ差異ヲ示セリ。本條ハ特ニ戰時運送ノ組織及作用ニ關スル最高國防會議議長ノ訓令並ニ鐵道、自動車、船舶、航空機ニ依ル輸送ノ戰時ニ於ケル動員及作用又ハ通信ノ組織及統制ニ關スル各省ノ訓令中ノ諸規定ニ法的根據ヲ與フルモノナリ。

第四十六條、第四十七條、第五十條、第五十一條及第五十四條ハ工業動員、農業動員、勞力ノ運用、輸出入、財政處分及人命財産ノ保護ニ關スル處置ノ統一ニ付規定スルモノナルガ以前ニ國會ノ議決シタル元上院案第四十四條乃至第四十六條、第四十八條乃至第五十條ヲ原則トシテ取入レタルモノニシテ之等ノ諸事項ニ關シ應急的ニ施行セラルル各省ノ訓令ニ法的根據ヲ與フルモノナリ。

第四十八條ハ戰時狀態ト兩立シ得ル限リ國內ニ於ケル正常ナル經濟活動ヲ維持スル爲商工大臣ヲシテ軍部大臣又ハ補給局ノ利用セザル工業施設ノ全部又ハ一部ヲ利用セシムルナリ。

第五十二條ハ動員ニ際シ國防上有利ナル道義的行爲トシテ國內及國外ニ於テ情報ニ關スル一般の義務ヲ命ズルコトヲ規定シ、第五十三條ハ一大臣ヲシテ國防上有利ナル科學的調査研究ヲ平時ヨリ準備シ戰時ニ於テ實行スルノ責任ヲ負ハシムルモノニシテ兩條共ニ最高國防會議議長又ハ各省ノ訓令ニ相應ズルモノナリ。

第五十五條（元上院案第五十二條）ハ各省大臣ヲシテ最高國防會議議長ニ對シ戰時ニ於ケル當該省ノ任務ノ準備狀況ヲ毎年報告スルノ義務ヲ負ハシメ又最高國防會議ヲシテ共和國大統領ニ對シ毎年綜合的報告ヲ爲サシムルモノニシテ以前國會ノ議決シタル規定ヲ再ビ取入レタルモノニ過ギズ。而シテ此ノ制度ハ十年以上實施シ來レル結果ニ徴スルニ甚ダ有效ナルヲ認

メ得ルナリ。

第五章 特別規定

第五十六條ハ戰時ノ行政組織ヲ規定スルモノニシテ此ノ點ニ關シ以前ニ國會ノ議決シタル原則（元上院案第五十三條）ニ從ヒ縣ノ範圍ニ於テ之ヲ行フコトトセリ。問題ハ主トシテ行政上又ハ經濟上ノモノナルガ故ニ知事ヲ以テ最適任者ト見ルコトヲ得ベシ。軍當局ハ同時ニ軍地區ニ於テ軍事動員ノ準備ヲ爲スヲ要スルヲ以テ本條ニ於テハ又知事、軍部兩者ノ交渉ニ關スル規定ヲ置キタリ。以上ノ意味ヲ以テ最高國防會議議長及內務大臣ノ訓令ニ於テモ縣單位ニ依ル國家總動員準備ノ組織ヲ採用シタルナリ。故ニ本法案ニ於テモ縣ヨリ廣キ地域ニ互ル組織ヲ規定スルハ必要ナキモノト認メタリ。

第五十七條（元上院案第六十二條）ハ交通及通信ノ系統其ノ他ヲ出來得ル限リ國防上ノ必要ニ適應セシメントスル規定ナリ。

第五十八條及第五十九條（元上院案第五十一條及第六十五條）ハ本法案ノ規定ヲ海外領土ニ適用スルコトニ關スル規定ナリ。

第三部 戰時國家一般組織法案（一九三五年六月政府提出）

第一章 總則

第一條 平時組織ヲ戰時組織ニ轉移セシムル爲必要ナル處置ニ付テハ平時ヨリ其ノ準備ヲ爲ス

前項ノ處置ハ國防ニ備フルノ必要ヲ生ズベキ明白ナル攻撃ヲ行フ場合、國際聯盟規約ノ定ムル場合及對外關係急迫シテ攻撃準備ヲ爲スノ必要アル場合ニ於テ其ノ全部又ハ一部ヲ實施ス同時ニ國際聯盟ハ係争ヲ審理ス

第二條 政府ハ平時ヨリ左ニ掲グル事項ニ付準備ヲ爲ス

一 陸軍、海軍及空軍ノ動員

二 戰時ニ於ケル國ノ全資源ノ運用

第三條 陸軍、海軍及空軍ノ動員ハ軍事法規ノ定ムル所ニ依リ之ヲ行フ

軍ノ人的及物的編成並ニ維持ニ關スル處置ニ付テハ陸軍大臣、海軍大臣及空軍大臣其ノ準備ヲ爲シ、動員ニ際シ第五條、第三十七條及第四十條ノ制限内ニ於テ前記各大臣ノ監督ノ下ニ之ヲ實施ス

第四條 領土ノ防空處置ハ攻勢防禦及治安維持ニ關スル軍事法規並ニ守勢防禦組織法ニ依リ之ヲ定ム

第五條 戰時ニ於ケル國ノ全資源ノ運用ニ關スル處置ノ準備及實施ハ各大臣之ヲ行フ但シ陸軍大臣、海軍大臣及空軍大臣ハ第三條ニ規定スル需要ヲ充ス爲資源ノ運用ニ關シ他ノ各大臣ニ優先ス各省大臣ハ戰時ニ於ケル當該省ノ任務ニ付準備ヲ爲スノ責任ヲ有ス

政府ハ平時ヨリ各省ノ戰時ニ於ケル任務及權限ヲ定メ且動員ニ際シ各省ノ内地及其ノ管轄海外領土ニ於テ管理スベキ公益事業及利用ヲ統制スベキ私設機關ヲ決定ス

第六條 政府ハ平時ニ於テ國ノ戰時組織ヲ目的トスル處置ノ準備ヲ爲ス爲最高國防會議ヲ管理ス 最高國防會議ノ事務執行

機關、研究委員會及常設總秘書局ハ直接議長ノ權限ノ下ニ之ヲ置ク 最高國防會議及其ノ研究機關ノ組織ハ大統領令ニ依リ之ヲ定ム但シ研究機關ノ組織ニ關スル大統領令ニハ大藏大臣之ニ副署ス

第七條 本法ノ規定ハ第一條ニ定ムル場合ノ外之ヲ適用スルコトヲ得ズ

第二章 人的及物的資源ノ運用

第八條 戰時又ハ對外關係急迫セル場合ニ於テ年齢十八年以上ノ男子タル佛蘭西人及佛蘭西國所屬ノ者ハ徵兵法ニ定ムル所ニ依リ兵役ノ義務ヲ有スル者ト雖モ軍部大臣ニ使用セラレザル限り一八七七年七月三日附法律及一九三五年一月二十一日附法律ノ定ムル所ニ從ヒ(但シ本法第二十一條ノ規定ヲ留保ス)一九二八年三月三十一日附法律及本法ニ依リ之ヲ徵發スルコトヲ得

前項ニ依ル徵發ハ一時的又ハ永續的トス

徵發セラレタル者ハ單獨ニ、行政事務其ノ他ノ公務ニ又ハ國ノ利益トナルベキ營造物其ノ他ノ事業ニ其ノ家庭ノ事情ヲ考慮シ年少者ヨリ其ノ者ノ職業若ハ能力又ハ必要アルトキハ其ノ適性ニ應ジテ之ヲ使用ス

徵發セラレタル者ニシテ徵兵法ニ依リ兵役ノ義務ヲ有セザル者ハ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ特務部隊ニ充用スルコトヲ得ズ一九二七年七月十三日附法律第四十條ノ規定ハ本條ノ規定ニ抵觸スル限り之ヲ廢止ス

職務若ハ職業ヲ有スル個人又ハ國ノ需要ヲ充ス爲必要ナリト認めララルル事業ニ參加スル全員モ亦之ヲ徵發スルコトヲ得

國、縣若ハ市町村ノ事務又ハ免許セラレタルモノナルト否トニ拘ラズ一般公益事業ニ關與シタル者ハ其ノ名義ノ何タリシヲ問ハズ退職後五年間身體上及精神上ノ必要ナル條件ヲ具備スル限り當該事務又ハ事業ニ之ヲ使用スルコトヲ得第二十五條末項ノ規定ハ前記ノ者ニ之ヲ適用ス

第九條 徵發セラレタル者ニ對シテハ手當又ハ給料ヲ支給スルノ外補償ヲ與フルコトナシ

手當ハ當該事務又ハ之ト同視セラルル職務ノ初任給ニ基キ徵發官廳之ヲ定ム但シ右ニ依リ同視スベキ場合ハ明文ノ定ムルモノヲ除クノ外關係大臣及大藏大臣ノ副署セル大統領令ニ依リ之ヲ定ム

給料ハ國其ノ他ノ行政廳ノ名ニ於テ締結セラルル取引ニ於ケル勞働條件ニ關スル一八九九年八月十日附大統領令ヲ適用スル爲ニ調製シタル正常ニシテ一般のナル給料ノ明細書ニ基キ之ヲ定ム明細書ハ大統領令ノ定ムル手續ニ依リ修正増補スルコトヲ得

給料ハ徵發官廳各場合ニ於テ定ムル賞與金ヲ加フルノ外之ヲ増額スルコトヲ得ズ

徵發セラレタル者ハ勞働法及社會法ノ適用ニ因ル利益ヲ享ク

第十條 年齢十八年以上ノ佛蘭西人及佛蘭西國所屬ノ者ハ每五年ノ國勢調査ニ際シ其ノ現在又ハ過去ノ職業ヲ申告シ且行政官廳ノ要求シタル報告ヲ爲スベシ

知事ハ其ノ縣ニ於テ勞力ノ分配ヲ擔當スル大臣ノ指示ニ基キ且第四十九條及第五十六條ノ規定ヲ考慮シ行政事務其ノ他ノ公務及動員ニ際シ利用セラルベキ營造物其ノ他ノ事業ニ對スル人的資源ノ分配ヲ確保ス此ノ場合ニ於テハ事業ノ國防上ノ重要性特ニ軍需事業ノ優先性ヲ考慮スベシ

行政官廳ハ平時ニ於テ充用書ヲ交付スルコトヲ得充用書ヲ交付ヲ受ケタル者ハ領收書ヲ提出シ其ノ住居ヲ變更シタルトキハ充用書ノ署名官廳ニ對シ其ノ旨ヲ届出ヅベシ

第一項若ハ前項ニ定ムル義務ヲ履行セズ又ハ故意ニ虚偽ノ報告若ハ申告ヲ爲シタル者ハ第二十五條第一項ニ定ムル刑ニ處ス

第十一條 縣委員會ハ戰時ニ際シ徵發シタル勞力ヲ統制ス

委員會ハ勞務者團體及事業主團體、各同數ノ代表者ヲ含ム

委員會ハ利害關係人ノ請求ニ依リ無償ヲ以テ充用ニ關スル總テノ問題ヲ審理ス

委員會ノ組織及權限ハ勞力資源ヲ管轄スル大臣之ヲ定ム委員ハ委任ニ因リ權限ヲ有スル地方官廳之ヲ任命ス委員會ノ議長ハ知事ヲ以テ之ニ充ツ

第十二條 兵役ノ義務ヲ有セズ且戰時緊要ナル職務又ハ職業ヲ有セザル者ハ總テ其ノ住所又ハ居所ノ存スル縣ノ知事ニ對シ

行政事務其ノ他ノ公務又ハ國ノ利益ノ爲營マルル營造物其ノ他ノ事業ニ於テ一年以上交戰期間以内ノ期間働クベキ契約ヲ

締結スルコトヲ得締結者ニハ充用書ヲ交付ス當該官廳ハ何時ニテモ此ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

契約ハ每五年ノ國勢調査後六ヶ月以内ニ之ヲ更新スルコトヲ要ス

第十三條 戰時ニ際シ外國人書面ニ依リ出願シタルトキハ第八條第三項ニ規定スル公務又ハ事業ニ協力スルコトヲ許可ス許可ノ條件ハ大統領令ニ依リ之ヲ定ム

前項ノ大統領令ノ内容タル事項ノ準備ニ關シテハ關係大臣ノ請求ニ依リ平時ニ於テ訓令ヲ以テ之ヲ定ム

佛蘭西ニ滞在スル聯合國又ハ中立國ノ國民ノ使用（勞力使用ノ如シ）ニ關シテハ平時ヨリ訓令ヲ以テ其ノ本國官署ニ對スル關係並ニ佛蘭西ノ法規及官署ニ對スル關係ニ於ケル身分ノ規定シ且其ノ使用規則ヲ定ムルノ權限ヲ有スル省ヲ指定ス

第十四條 國ノ需要ヲ充スニ必要ナル給付ハ協定ニ依リ、協定ニ依ルコト能ハザルトキハ徵發ニ依リ之ヲ供給セシム

給付ニ因ル利得ハ總テ之ヲ認メズ給付ニ對スル對價ハ第十五條乃至第十九條ノ規定ニ依リ之ヲ支給ス

第十五條 協定ハ以下ニ定ムル所ニ依リ之ヲ行フ

國ノ占有シタル不動産ニ關シテハ其ノ時ニ發行セラレタル國債ノ國立市場ニ於ケル實際ノ利率ニ依リ、國債ナキトキハ佛蘭西銀行ノ貸付利率ニ依リ計算シタル當該不動産ニ對スル投下資本ノ利子ヲ最高限トシテ價格ヲ定ム占有期間内ノ不動産ノ維持ハ總テ國ノ負擔トス

農産物其ノ他總テ價格ヲ定メ得ラルル生産品ニ關シテハ動員前五ケ年間ノ市場相場ニ基キ且相場ニ變動ヲ及ボスベキ總テノ事情ヲ考慮シテ價格ヲ定ム

工業生産品及商業業務ニシテ専ラ協定ニ依ル取引ノ實行ヲ目的トシテ使用又ハ運用セラルルモノハ戰時之ヲ國ノ監督ノ下ニ置ク

協定ニ依リ直接且永續的ニ事業經營ニ關與スル者ニ對スル補償、手當及給料ハ第九條ノ規定ニ依リ之ヲ定ム國ノ需要ニ應ジ發明及生産ヲ獎勵スルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ獎勵金ヲ支給ス獎勵金ハ事業ノ會計ニ之ヲ支拂ヒ専ラ支配人、技術者及勞務者ニ支給ス

事業ノ投下資本ニシテ國ノ利用スルモノニ對シテハ、一般經費トシテ扱ハルル利子ニシテ、其ノ時ニ發行セラレタル國債ノ國立市場ニ於ケル實際ノ利率ニ依リ、國債ナキトキハ佛蘭西銀行ノ貸付利率ニ依リ計算シ且國ノ爲ニ行ハルル製造ノ期間

内ニ建物及機械ニ付シタル損耗若ハ毀損又ハ建物及機械ノ取替ニ相當スル金額ヲ加算シタルモノヲ支給ス

資本金額ハ經營者若ハ所有者又ハ正當ニ呼出ヲ受ケタル者及商工大臣若ハ其ノ代理人ト利害關係人（利害關係人ナキトキハ民事裁判所長）トノ合意ニ依リ指名セラレタル鑑定人ノ立會ヲ以テ調製シタル財産目錄ヲ以テ正當ニ承認セラレ且公表セラレタル最近ノ貸借對照表ニ依リ之ヲ定ム

取引價格ハ貸銀率、原料相場、運賃及一般經費ノ變動並ニ戰時事情ニ基ク其ノ他ノ總テノ變動ニ伴フ増價又ハ減價ヲ考慮シ動員前ニ於ケル半期ノ正常價格ノ平均ニ依リ之ヲ定ム

國庫ハ命令ノ定ムル所ニ依リ取引ヨリ生ジタル豫見セラレザリシ剩餘額ヲ收納シ缺損額ヲ填補ス但シ工業主ノ重大ナル過失ニ基ク缺損額ハ此ノ限ニ在ラズ

事業ニシテ其ノ一部ガ國ノ注文ノ爲經營セラルルモノハ其ノ注文ノ爲ニスル生産ニ關スル限り之ヲ同様ノ監督及制度ニ服セシムルコトヲ得

小事業主ハ地方別ノ團體ヲ組織スルコトヲ得國ハ此ノ團體ニ對シ同様ノ制度及監督ノ下ニ取引ヲ割當ツルコトヲ得團體ハ其ノ受ケタル注文ヲ團體員間ニ割當テ且其ノ正規ノ履行ヲ保證スルコトヲ要ス

本條ニ規定スル監督、制度及取引ノ一般條件ハ最高國防會議ノ議ヲ經且大藏大臣ノ副署シタル命令ヲ以テ平時ヨリ之ヲ定ム

資本額ノ決定又ハ取引ノ實行ニ關シテ協定調ハザルトキハ當事者ハ民事訴訟法第三編ニ規定スル仲裁裁判ヲ請求スルコトヲ得仲裁裁判決ハ終局判決ニシテ確定力ヲ有ス

第十六條 佛蘭西ノ全領土及領海ニ於ケル總テノ動産及不動産ノ所有權及使用權並ニ特許權及免許事業權ハ國ノ必要アルトキハ現行國際協定ノ制限内ニ於テ一八七七年七月三日附法律及一九三五年一月二十一日附法律ノ定ムル所ニ依リ且第二十條ノ規定及以下ニ定ムル規定ヲ考慮シ之ヲ徵發スルコトヲ得

徵發ハ個々ニ又ハ集團的ニ徵發目的ノ存スル市町村長ヲ經由シ又ハ之ヲ經由セズシテ直接ニ行フ
一九三五年一月二十一日附法律ニ依リ修正セラレタル一八七七年七月三日附法律第三十五條ノ規定ニ依ル總テノ場所ニ於ケル船舶ノ徵發權ハ本法ニ依ル徵發ニ付テモ之ヲ行フコトヲ得海運會社ノ所在地ニ於テ徵發ヲ行フトキハ公海又ハ外國領海ニ在ルモノト雖モ當該會社ノ船舶ハ總テ之ヲ徵發スルコトヲ得

第十七條 徵發ニ因ル賠償ハ給付義務者徵發物ノ收用又ハ使用ニ因リ徵發日ニ於テ蒙レル現實的損失ニ依リ之ヲ定メ其ノ物ヲ自由ニ使用シ得タリセバ得ベカリシ利益並ニ投機、買占其ノ他戰時事情ニ基ク總テノ事實ニ依リ生ジタル騰貴ニ因リ得ベカリシ利益ハ之ヲ考慮セズ

賠償額ハ總テノ要素ヲ考慮シ之ヲ決定ス

賠償額ハ一八七七年七月三日附法律第二十四條第一項ニ規定スル委員會之ヲ決定ス委員會ハ行政官廳及經濟團體、工業團體、商業團體又ハ農業團體ノ各同數ノ代表者ヲ含ム

特殊ノモノニ付テハ特別評價委員會ヲ設クルコトヲ得特別評價委員會ノ組織、權限、所在地及管轄ハ各主管大臣之ヲ定ム徵發官廳ハ第三項ニ定ムル委員會ノ提議ニ基キ支給スベキ賠償額ヲ決定ス但シ給付義務者ハ普通法ニ依ル裁判ヲ請求スルコトヲ得

特殊ノ給付ニ對スル賠償額ハ委員會ガ提出シ主管大臣ガ第四十三條ニ定ムル委員會ノ議ヲ經テ承認シタル物價表及價格早見表ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ得

第十八條 國ハ徵發ニ依リ工業施設及商業施設ノ全部又ハ一部ヲ占有シテ之ヲ經營スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ賠償額ハ當該事業ノ資本ニシテ國ノ利用スルモノノ利子ニ相當スルモノトス利子ハ第十五條ニ定ムル率ニ依リ算定シ且建物、設備、機械器具等ノ償却價格ヲ加算シテ之ヲ定ム

如何ナル場合ニ於テモ賠償額ハ最近五ヶ年度ノ工業利益及商業利益ニ對スル稅額ヲ控除シタル事業ノ純益ノ平均額ヲ超ユルコトヲ得ズ償却率ハ私文書稅ノ課稅標準決定ノ爲同年度中承認セラレタル償却率ヲ超ユルコトヲ得ズ

施設ノ一部ヲ徵發シタル場合ニ於テ設備又ハ機械器具ガ國ニ依リ占有セラレタル爲事業ヲ繼續スルコト能ハザルニ至リタルトキハ施設ノ全部ニ付徵發アリタルモノト看做シテ賠償額ヲ算定ス

施設ノ一部ヲ徵發シタルニ因リ事業ノ能率減少シタルニ過ギザル場合ニ於テ算定セラレタル賠償額徵發期間中ノ純益ヲ超過スルトキハ賠償額中ヨリ純益額ヲ控除シ、純益額ニ滿タザルトキハ賠償ヲ爲サズ

國ノ徵發シタル補給品、貯藏品及生產品ニ付テハ前條ノ規定ニ依リ賠償額ヲ定ム

徵發官廳ハ經營者又ハ正當ニ呼出ヲ受ケタル者ノ立會ヲ以テ土地、家屋、原料、補給品及貯藏品ヲ評價シ得ベキ財産目録ヲ調製シタル後ニ非ザレバ徵發物ヲ占有スルコトヲ得ズ 財産目録調製ニ關シ異議アルトキハ當事者ノ請求ニ依リ當該施設所在地ノ民事裁判所ノ略式手續ニ依リ任命セラレタル一人又ハ二人以上ノ鑑定人ノ鑑定ヲ以テ之ヲ調製ス 鑑定ニ依ル場合ト雖モ假占有ヲ爲スヲ妨ゲズ

徵發ノ解除アリタルトキハ必要ニ應ジ前項ニ定ムル方法ニ依リ家屋又ハ機械器具ノ減價、異常ナル損耗若ハ破損ヲ調査シ其ノ評價ヲ行フ

賠償額ハ前條ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

第十九條 第十七條第三項ノ規定ニ拘ラズ前條ニ依ル徵發 基ク賠償額ヲ決定スル爲主管大臣ノ發議 依リ當該官吏及豫メ調製セラレタル鑑定人名簿中ヨリ選定セラレタル鑑定人各同數ヲ以テ組織セラルル特別委員會ヲ設クルコトヲ得

特別委員會ノ組織、權限、所在地、管轄及委員任命ノ手續ハ省令ヲ以テ之ヲ定ム

賠償額ノ決定ハ徵發命令ヲ爲シタル大臣又ハ其ノ特ニ委任シタル官廳之ヲ行フ

第二十條 第八條乃至第十九條ニ依リ徵發權ヲ有スル主管大臣ハ徵發ノ性質又ハ目的ニ從ヒ且第五條及第四十條ノ規定ヲ考應シテ之ヲ定ム

第二十一條 賠償額算定ニ關スル第九條乃至第十九條ノ規定ハ陸軍官憲、海軍官憲及空軍官憲ノ命令シタル徵發ニ之ヲ準用ス

第二十二條 第八條乃至第十九條ノ規定ノ適用ノ態様ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム 此ノ命令ニ於テハ特ニ徵發權委任ノ條件及委任ヲ受クル官廳並ニ占有取得、徵發給付ノ評價及賠償額支拂ノ手續ヲ明ニスベシ

賠償額評價委員會ノ組織、任命形式及職務執行規則ハ前項ノ規定ニ依ル命令ヲ以テ之ヲ定ム

人員ノ徵發ニ關スル異議ニ付應急判決ヲ爲ス官廳ハ第一項ノ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條 最高國防會議議長ノ任命シタル關係各省ノ代表者並ニ經濟團體、工業團體、商業團體及農業團體ノ代表者中ヨリ選バレタル者各同數ヲ含ム中央委員會ハ縣評價委員會ト共ニ清算ノ統一及適正ニ付責ニ任ジ且賠償規定ニ關スル異議ニ

付其ノ意見ヲ述ブルコトヲ得

中央委員會ハ平時ヨリ之ヲ設置シ最高國防會議議長ノ下ニ屬セシム

中央委員會ハ大統領令ノ定ムル所ニ依リ組織セラレ省令ノ定ムル所ニ依リ其ノ職務ヲ行フ

第二十四條 政府ハ平時ヨリ命令ノ定ムル所ニ依リ動員ニ際シ徵發シ得ベキ人員、獸畜、原料、材料、生産品、食糧品、器具、不動産、施設、事業等ヲ調査シ必要アルトキハ特別承認投票ヲ經テ緊要ト認ムル事項ヲ試ミルコトヲ得

本條ニ依リ爲シタル調査ノ結果ヲ利用シ若ハ漏洩シ又ハ利用セントシ若ハ漏洩セントシタル者ハ第二十五條第三項及第四項ニ定ムル刑ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル官吏又ハ其ノ使用人ハ一年以上五年以下ノ禁錮ニ處ス

第二十五條 平時ニ於テ本法執行ノ爲官廳ノ爲シタル正當ナル命令ニ服セザル者ハ七十五法以上三千法以下ノ罰金ニ處ス

累犯者ハ百五十法以上六千法以下ノ罰金ニ處ス

故意ニ虚偽ノ報告又ハ申告ヲ爲シタル者及詐術ヲ用ヒテ調査セラルベキ財物ヲ隠匿シ又ハ隠匿セントシタル者ハ百五十法以上六千法以下ノ罰金ニ處ス

累犯者ハ三百法以上一萬二千法以下ノ罰金ニ處ス

戰時ニ於テ正當ナル徵發命令ニ服セザル者又ハ人員徵發ニ依リ徵發セラレタル者其ノ遂行スベキ公務又ハ經營若ハ事業ヲ放棄シタルトキハ六日以上五年以下ノ禁錮ニ處ス徵發セラレタル給付ヲ爲サザル者ハ五百法以上給付價格ノ二倍以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 故意ニ不法ナル徵發ヲ爲シタル官公署職員ハ刑法第七十四條ニ定ムル刑ニ處ス

二八

第三章 戰爭ノ指導及公權力ノ作用

第二十七條 戰爭指導ノ任ヲ有スル政府員及平戰兩時ニ於テ主權表示ノ任ヲ有スル國會議員ハ動員ニ際シテモ各其ノ任ニ留ルベシ

國會兩院ハ各其ノ規則ヲ以テ動員部隊ニ屬スル議員ノ地位及委任事務實施ノ條件ヲ定ム

第二十八條 國會ハ各大臣ノ行爲ニ對スル絶對的監督權ノ行使ヲ繼續ス

政府及國會兩院ハ各其ノ院ニ屬スル議員ニ對シ國內及國外ニ於テ軍隊ニ關スル特別任務ノ遂行ヲ命ズルコトヲ得

第二十九條 國會兩院ハ大委員會ニ對シ其ノ權限内ニ於テ行政事務其ノ他ノ公務ノ實地檢査ヲ委任スルコトヲ得

兩院ノ財政委員會ハ永續的ニ國防經費ノ使用ヲ檢査ス同委員會ハ各大臣ニ對シ其ノ任務ヲ行フ爲必要ナル報告ヲ求ムルコトヲ得

第三十條 檢査ヲ委任セラレタル國會議員ハ調查報告資料ヲ蒐集スル能力ノミヲ有シ檢査ヲ受タル官廳ニ對シ意見、批判、暗示其ノ他自發權又ハ階級的責任ニ影響ヲ及ボスベキ命令ヲ與フルコトヲ得ズ

主務大臣ハ檢査ヲ委任セラレタル者ノ任務ノ遂行ヲ自由且完全ナラシメ其ノ遂行ニ必要ナル便宜ヲ與フベシ總テ文武ノ官廳ハ受任者ノ爲シタル質問ニ對シ正確明瞭ニ回答ヲ爲スベシ

受任者ハ職務上ノ祕密ヲ守ルコトヲ要ス受任者ハ委員會ニ對シ其ノ各任務ニ付書類ヲ以テ報告ヲ爲スベシ委員會ハ上院又ハ下院ノ議ヲ經テ該報告ヲ政府ニ移送スベシ

第三十一條 國會閉會ノ場合ニ於テ國防上緊急ノ必要アルトキハ財政法別表ニ掲ゲラレザル補充費及臨時費ヲ閣議ニ於テ審議承認シタル後參事院ノ發シタル命令ノ定ムル所ニ依リ上院及下院ノ財政委員會ニ通知シ應急的ニ支出スルコトヲ得前項ノ命令ハ次期ノ國會開會後十五日以内ニ其ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス

第三十二條 軍事費以外ニ關シテハ戰時ニ於テモ通常ノ豫算規則ヲ施行ス應急費ハ前條ニ定ムル所ニ依リ陸軍、海軍及空軍ノ豫算ニ基ク費用、植民地ノ軍事費及戰況上緊急ノ必要アリト認メラルル一般費用トシテ三ヶ月毎ニ之ヲ使用スルコトヲ得同一軍ノ爲ニ支出シタル應急費ニ付支出ノ報告アリタルトキハ國會ハ次期ノ開會後三ヶ月以内ニ其ノ應急費ヲ決定費ニ組換フベシ

第三十三條 政府ハ戰爭ヲ指導ス

政府ハ兵力發動ノ目的ヲ定メ總司令官ヲシテ必要ナル手段ヲ執ラシメ其ノ實施ヲ監督ス

政府ハ軍及國ノ需要ヲ充ス爲必要ナル處置ノ實行ニ付準備ヲ爲シ且其ノ實行ヲ確保ス

第三十四條 政府ハ必要ナル研究ヲ行フ爲平時ヨリ準備セル最高國防會議及其ノ研究機關ヲ使用スルコトヲ得

動員ニ際シ最高國防會議及其ノ研究機關ノ組織、權限及職務ニ加フベキ變更ハ平時ヨリ大統領令ヲ以テ之ヲ定ム動員日誌ニ付亦同ジ 研究機關ノ組織ニ關スル大統領令ニハ大藏大臣之ニ副署ス

第三十五條 總司令官ハ各其ノ關係スル限ニ於テ軍事行動ヲ指揮ス

二九

陸軍、海軍及空軍並ニ領土ノ防空ニ充當セラルル特別部隊ノ配置及命令系統ハ指揮ニ關スル特別大統領令ニ依リ之ヲ定ム

第三十六條 戰況上必要ナル新設機關ノ設置ニ付テハ指定セラレタル主務省平時ヨリ其ノ準備ヲ爲ス

一又ハ二以上ノ動員基幹ハ原則トシテ關係省ノ請求ニ基キ且第四十條ノ定ムル所ニ依リ平時ヨリ之ヲ組織ス新設機關ハ命令ヲ受ケタルトキ該動員基幹ヲ基礎トシテ之ヲ組織ス

戰時ニ際シ設置スベキ新設機關ハ政府ノ定ムル日ヨリ其ノ職務ヲ執行ス

第三十七條 戰時必要ナル機關ヲ設置スル爲一定ノ公益事業ニ屬スル人員及設備ノ全部又ハ一部ハ戰時ニ際シ閣令ノ定ムル所ニ依リ平時ニ於テ當該公益事業ヲ管轄セザル大臣ヲシテ之ヲ管轄セシムルコトヲ得

平時組織ヲ戰時組織ニ轉移セシムル準備ヲ爲ス爲必要アルトキハ前項ノ公益事業ニ屬スル人員ノ一部ハ戰時ニ際シ之ヲ管轄スベキ大臣前項ニ定ムル所ニ依リ平時ヨリ之ヲ使用スルコトヲ得

本條ノ定ムル所ニ依リ派出職員トシテ一時使用セラルル總テノ文武官ハ依然其ノ原職ニ留ル之ニ對スル賞罰ハ派出職員ノ所管大臣ヨリ其ノ原職ノ所管大臣ニ提議ス

第三十八條 戰時ノ對外處置ハ政府ノ指揮ノ下ニ外務大臣ノ權限ニ屬ス

外務大臣ハ其ノ管轄ニ屬スル保護國ニ於テ地方法規ヲ本法ニ準ジテ改ムル爲必要ナル處置ヲ執リ且其ノ處置ノ運用ヲ統轄ス

外務大臣ハ一切ノ遣外公式使節ニ對シ其ノ發議省又ハ技術上若ハ會計上ノ所屬省ノ如何ニ拘ラズ之ヲ指揮スルノ權限ヲ有ス該使節ハ豫メ外務大臣ノ承諾ヲ得ルニ非ザレバ之ヲ創設スルコトヲ得ズ

現行法規ニ依リ陸軍、海軍、及空軍ノ司令官ニ屬スル權限ニ抵觸セザル限り閣令ヲ以テ敵國トノ交通及取引ニ關シ陸上、海上及空中ニ於テ執ルベキ一般處置ヲ定ムルコトヲ得關係各省ハ外務大臣ノ承認ヲ得且其ノ監督ノ下ニ前記ノ處置ヲ執行ス政府ハ平時ヨリ國際聯盟規約ノ制限内ニ於テ閣令ノ定ムル所ニ依リ外務大臣ノ提議ニ基キ必ズシモ動員命令アリタルコトヲ要セズシテ該規約ノ諸規定特ニ第十條、第十一條（第一項）、第十三條（第四項）、第十六條及第十七條（第四項）ニ規定スル經濟上及財政上ノ處置ヲ命ズルコトヲ得

第四章 資源ノ運用實施

第三十九條 各省ハ其ノ戰時組織及動員ニ際シテ執ルベキ處置ノ準備ヲ爲ス爲一機關ヲ指定ス

前項ノ目的ノ爲各省ハ戰時組織ノ計畫及日誌並ニ動員ニ際シ管理スベキ公益事業及運用ヲ統制スベキ私設機關ノ特別計畫及特別日誌ヲ作成スベシ

各省ハ其ノ戰時權限ノ範圍内ニ於テ動員ニ際シ戰時有效産業ノ爲利用セラルル私的營造物及事業ノ經營者ト平時ヨリ第十條ニ定ムル協定ヲ締結スベシ各省ハ國會ニ對シ平時費用ニ付必要ナル許可ヲ請求スベシ

國ハ何時ニテモ前項ノ協定ヲ取消スコトヲ得

第四十條 各資源又ハ特定種類ノ資源ノ生産及蒐集ノ爲動員ノ場合ニ於テ各省ニ對シ供給擔當大臣トナリテ必要ナル處置ヲ執ルノ責任ヲ有スル一大臣ヲ平時ヨリ指定ス

一省ニ於テ利用スル一資源、一種類ノ資源、原料、農産物又ハ工業品ヲ蒐集スル爲必要ナル處置ハ原則トシテ當該省之ヲ行フ

第四十一條 動員ノ場合又ハ對外關係急迫セル場合ニ於テ緊急ノ必要アルトキハ前條ニ依リ指定セララルル大臣ノ提議ニ基キ發スル閣令ニ依リ一定資源ノ輸出入、取引、利用、占有及販賣ヲ制限シ若ハ禁止シ又ハ其ノ資源ニ課税シ若ハ其ノ消費日量ヲ定ムルコトヲ得

前項ニ定ムル手續ニ依リ發スル閣令ニ依リ國ノ需要スル原料、製品又ハ食糧品ノ所有者、生産者、占有者又ハ管理者ヲシテ其ノ占有量ヲ申告セシムルコトヲ得

前二項ニ依ル處置ハ第四十三條ニ定ムル委員會ニ諮問シ之ヲ行フ

第一項及第二項ニ依リ發スル閣令ニ違反シタル者ハ百法以上五千法以下ノ罰金若ハ六日以上二月以下ノ禁錮ニ處シ又ハ兩刑ヲ併科ス

前項ノ外裁判所ハ判決ノ全部又ハ拔萃ヲ其ノ指定スル場所ニ揭示シ且其ノ費用ヲ千五百法迄被告ノ負擔トナスコトヲ命ズルコトヲ得

累犯者ニ對シテハ罰金ハ三千法以上二萬法以下トシ禁錮ハ二月以上一年以下トシ被告ノ負擔スベキ揭示ノ費用ハ三千法迄トス

第一項又ハ第二項ニ定ムル閣令ノ施行ノ爲主務大臣其ノ他ノ官廳ノ發シタル命令ニ違反シタル者ニ付テハ刑法第四百七十九條、第四百八十條及第四百八十二條ヲ適用ス

第四十二條 各省ノ全需要額ヲ充ス能ハザル種類ノ資源アルトキハ供給擔當大臣ハ政府ノ指令ニ從ヒ第四十三條ニ定ムル委員會ノ議ヲ經テ各需要省ニ對スル割當額ヲ定ム

分配ニ關シ供給擔當大臣ノ爲シタル決定ニ對シテハ需要省上訴ヲ爲スコトヲ得上訴ハ最高國防會議ニ對シテ之ヲ爲ス最高國防會議ハ事件ヲ審理シ協定不調ヲ認メタルトキハ閣議ノ裁決ヲ請求スベシ供給擔當大臣ノ爲シタル決定ハ上訴ニ依リ其ノ效力ヲ停止セララルコトナシ

第四十三條 戰時ニ際シ一資源又ハ特定種類ノ資源ノ供給擔當大臣トシテ指定セラレタル大臣ハ其ノ權限ニ屬スル處置ノ準備及實施ニ付諮問委員會ノ補佐ヲ受ク

諮問委員會ハ省令ノ定ムル所ニ依リ平時ヨリ之ヲ組織ス諮問委員會ニハ關係アル商業、工業及農業ノ從業者團體及事業主團體ノ代表者並ニ當該資源ノ需要省ノ代表者ヲ参加セシム

第四十四條 戰時ニ際シ國ノ監督ヲ受ケ且第十四條乃至第十八條ノ定ムル所ニ依リ特定種類ノ資源ノ蒐集及分配事務ヲ遂行セシムル爲商事會社ノ性質ヲ有スルモノタルト否トヲ問ハズ生産者、免許狀ヲ有スル商人及消費者ヲシテ團體ヲ組織セシムルコトヲ得

前項ノ團體ハ關係省ノ省令ノ定ムル所ニ依リ平時ヨリ之ヲ組織スルコトヲ得
從業者團體及事業主團體ハ各其ノ代表者ヲ参加セシム

第四十五條 戰時ニ際シ各種ノ運輸事業ハ軍及國ノ需要ヲ充ス爲之ヲ統一シテ一大臣ノ管轄ノ下ニ置ク

戰時ニ際シ各種ノ通信事業ハ軍及國ノ需要ヲ充ス爲之ヲ統一シテ一大臣ノ管轄ノ下ニ置ク但シ平時ニ於テ陸軍、海軍及空

軍ノ各大臣ノ管轄ニ屬スル軍用通信並ニ動員ニ際シ軍用通信ニ用ヒラルル補助通信設備ハ此ノ限ニ在ラズ 補助通信設備ハ戰時ニハ軍部大臣ノ管轄ニ專屬ス

第一項及前項ノ規定ニ拘ラズ

- 一 政府ノ定メタル場合及必要ニ應ジ平時ヨリ豫定セラレタル場合ニ於テハ運輸及通信事業ノ主務大臣ハ繼續的又ハ一時的ニ運輸又ハ通信事業ノ經營ノ全部若ハ一部ノ管理ヲ他ノ大臣ニ委任スルコトヲ得
- 二 軍地帯ニ於テハ作戰軍隊ノ司令官ハ佛蘭西領土内ニ在ルモノタルト否トヲ問ハズ總テノ運輸及通信ノ設備ヲ使用スルコトヲ得

三 陸軍省、海軍省及空軍省ハ以下ニ定ムル所ニ依リ運輸及通信ノ安全ヲ保護スベシ

陸軍大臣、海軍大臣及空軍大臣ハ軍地帯以外ノ佛蘭西領土内ニ於テ其ノ權限ニ屬スル手段及臨時ニ他省ヨリ委任セラレタル手段ニ依リ敵ノ地上及空中工作ニ對シ交通路及通信上重要ナル中心地ヲ保護防衛ス

軍地帯及占領地ニ於テ作戰軍隊ノ總司令官前項ノ任務ヲ有ス

總テ海上ニ於テハ艦隊總司令官第一項ノ任務ヲ有ス總司令官ハ商船及海上ヲ飛行スル飛行船ニ對シ積荷ノ性質及運送ノ緩急ヲ考慮シテ戰時ニ於ケル特別安全ノ處置並ニ商船及飛行船ノ行動ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得海軍大臣ハ平時ヨリ海運大臣トノ協議ヲ以テ商船ノ防禦編成ニ要スル器材ノ組立ヲ爲スニ必要ナル設備ニ關スル準備及命令ヲ爲ス動員發令ノ時ヨリ海運大臣ハ商船ニ對シ其ノ防備ニ必要ナル防禦編成ヲ命ズルコトヲ得

第四十六條 戰時ニ際シ數種ノ國營事業ニ使用セラルル工業品（完製品）ノ製造及分配ハ一大臣之ヲ統轄ス

國營事業ノ爲必要アリト認メラルル工業品（完製品）ヲ其ノ事業ノ所屬省ニ於テ有利ニ當該事業ニ供給スルコト能ハザルトキハ前項ニ定ムル大臣ニ對シ其ノ製造ノ確保ヲ請求スルコトヲ得

第四十七條 戰時ニ際シ軍隊及國民ノ爲必要ナル食糧品ノ生産、加工及分配ニ關スル情報其ノ他ノ處置ハ一大臣之ヲ統轄ス

第四十八條 商工大臣ハ戰時ニ際シ國ノ經濟活動ニ必要ナル工業品ノ製造及分配ヲ確保スル爲前二條ノ規定ニ依リ使用セラレザル工業施設ノ全部又ハ一部ヲ使用スルコトヲ得

第四十四條ノ規定ニ依リ設立セラレタル生産者團體及商人團體ハ經濟地域内ニ於テ商工大臣ノ監督ヲ受ケ前項ノ規定ニ依ル業務ヲ遂行スル責任ヲ有ス

第四十九條 戰時ノ勞力利用ニ關シテハ一大臣ハ其ノ利用ヲ爲ス大臣トノ密接ナル連絡ヲ以テ左ニ掲グル事項ニ付責任ヲ有ス

- 一 各種ノ公私ノ事業ノ勞力需要ニ關スル情報及利用シ得ル各種ノ勞力ノ統一
 - 二 各種ノ勞力ノ募集
 - 三 勞力ヲ需要スル公私ノ事業ニ對スル勞力ノ分配
 - 四 勞働條件及勞力ノ統制ニ關スル一般の規定ノ制定
- 前項各號ノ事務ニ付テハ平時ヨリ其ノ準備ヲ爲ス

第五十條 戰時ニ際シ總テノ輸入ニ關スル商事活動ノ整理ハ一大臣ニ之ヲ委囑ス委囑ヲ受ケタル大臣ハ關係各省ノ代表者ノ

技術的援助ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ委囑ヲ受ケタル大臣ハ輸出入ニ付許可證ヲ發行ス

第五十一條 大藏大臣ハ戰爭遂行上必要ナル財政命令ニ付平時ヨリ其ノ準備ヲ爲シ戰時ニ於テ之ヲ制定スルノ義務ヲ有ス外國人ヨリノ購買及外國人ニ對スル支拂ニ關スル條件ハ各省ノ同意又ハ購買機關及支拂機關ノ同意ヲ得テ大藏大臣之ヲ定ム

第五十二條 政府ハ平時ヨリ道義的行爲トシテ動員ニ際シ國防上利益トナルベキ報告ヲ爲スベキ一般的義務ヲ命ズルコトヲ得

第五十三條 戰時ニ際シ科學的調査研究ハ一大臣之ヲ統轄ス當該大臣ハ平時ヨリ其ノ準備ヲ爲ス義務ヲ有ス

前項ノ大臣ハ平時及戰時ニ於テ各省ノ技術的部門ニ於テ行フ科學的調査研究ヲ整理シ適當ナル私設機關トノ連絡ヲ確保ス

第五十四條 生命及財産ノ保護ノ爲必要ナル保護處置ハ平時ヨリ關係大臣其ノ準備ヲ爲ス内務大臣、陸軍大臣及海軍大臣ハ政府ノ定メタル管轄地域内ニ於テ其ノ準備ヲ監督ス

政府ハ前項ノ保護處置ノ全部又ハ一部ニ關スル命令ヲ定メ緊急ノ場合ニ於テ必要アルトキハ委任ヲ爲スヲ許可スルコトヲ得

第一項ノ保護處置ハ對外關係急迫セル場合ニ於テ其ノ全部又ハ一部ヲ實施スルコトヲ得

第五十五條 各大臣ハ毎年最高國防會議議長ニ對シ戰時ニ於ケル當該省ノ任務ニ關スル準備狀況ノ報告書ヲ提出スベシ

最高國防會議ハ前項ニ依ル報告書ヲ審査シタル後全國ノ組織準備狀況ノ年報ヲ作製スベシ年報ハ最高國防會議ノ議ヲ經テ

之ヲ共和國大統領ニ提出スベシ

第五章 特別規定

第五十六條 戰時ニ於ケル行政組織ハ知事ノ權限ヲ以テ縣ノ範圍ニ於テ之ヲ實施ス知事ハ平時ニ於テ其ノ準備ヲ爲シ動員ニ際シ之ヲ實施スル責任ヲ有ス

空陸軍各地區司令將校團ハ其ノ司令權ヲ行フ地域内ノ各縣知事ノ下ニ一名ノ常任代表者ヲ派遣ス代表者ハ直接又ハ間接軍事動員ニ關係アル行政上又ハ經濟上ノ問題ヲ處理スル資格ヲ有ス軍事動員ハ常ニ軍部ノ權限ニ專屬ス

海軍地區司令將校團ハ海軍ノ利益上必要アル限度ニ於テ其ノ地區ノ沿海地方内ノ各縣ノ知事ニ對シ前項ト同様ノ權限ヲ有ス

空陸海軍各地區司令將校團知事ノ處置ニ付軍事動員作業ヲ妨グルモノト認メタルトキハ知事ノ注意ヲ促シ其ノ撤回又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得知事及地方軍部官憲間ニ權限爭議ノ生ジタルトキハ最高國防會議之ヲ審理ス最高國防會議之ヲ調停スルコト能ハザルトキハ閣議ノ裁決ヲ請求スベシ

第五十七條 國ノ交通及通信系統ハ出來得ル限り同時ニ國防及國ノ需要ニ應ジ得ル様之ヲ設定ス

前項ノ目的ノ爲國境及交通施設ノ後方地區ノ裝備ニ關スル一般計畫、飛行場、動力源ノ整理等ハ最高國防會議ノ管轄ニ屬セシム工事ノ執行ハ財政法ニ依リ定メラルル經費ノ範圍内ニ於テ關係各省ノ請求ニ依リ之ヲ行フ

第五十八條 内務大臣及植民大臣ハ其ノ管轄ニ屬スル海外領土ノ總テノ資源ニ關シ前章ノ規定ニ基ク決定ヲ實施スル責任ヲ有ス

第五十九條 本法ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲアルジェリー及各植民地ニ施行ス

一九三五年六月二十一日於巴里

- 共和國大統領 アルベル・ルブラン
- 外務大臣 ビエル・ラヴァール
- 司法大臣 レオン・ペラール
- 國務大臣 ベー・ウー・フランタン
- 國務大臣 エドゥアル・エリオ
- 國務大臣 ルイ・マラン
- 内務大臣 ジョゼフ・バガノン
- 大藏大臣 マルセル・レニエ
- 陸軍大臣 ジャン・ファブリー
- 海軍大臣 ビエトリ
- 空軍大臣 ジェネラル・ドゥナン
- 教育大臣 マリオ・ルースタン

- 公共事業大臣 ローラン・エナ
- 商工大臣 ジョールジュ・ボンネ
- 農務大臣 ビエル・カタラ
- 植民大臣 ルイ・ローラン
- 労働大臣 エル・オー・フロサール
- 恩給大臣 モーポアール
- 遞信大臣 ジョールジ・マンデル
- 保健體育大臣 エルネ・ラフォン
- 海運大臣 ウィリアム・ベルトラン

附 米國クラーク法案

(一九三五年二月六日上院議員クラーク氏上院提出第二讀會終了、軍需工業特別委員會付託)

戰時資本發行委員會法案

第一條 本法ハ戰爭又ハ戰時狀態及緊急狀態ヲ宣言スル法律又ハ議會ノ共同決議ニ對シ大統領裁可ヲ爲シタル日ヨリ其ノ效力ヲ生ズ

資本發行委員會(以下委員會ト稱ス)ハ大統領ノ任命スル合衆國人民タル三名ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス。委員ノ任期ハ大統領ノ定ムル所ニ依ル。合衆國官吏若ハ使用者、聯邦準備銀行理事又ハ聯邦準備局職員ハ之ヲ委員ニ任命スルコトヲ得ズ

委員ノ年俸ハ七千五百弗トス。大統領ノ最初ニ任命シタル一名ノ委員ヲ以テ委員長トス他ノ二名ノ委員ハ業務ヲ執行ス。第二條 本法ノ目的ヲ達成スル爲大統領ノ公告シタル日以後本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外一切ノ證券ハ其ノ發賣又ハ購入若ハ引受ノ募集以前ニ於テ大統領ノ定ムル所ニ從ヒ委員會ニ之ヲ提出スルコトヲ要ス。右ノ公告アリタル後ハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外一切ノ證券ノ發賣又ハ購入若ハ引受ノ募集ハ委員會ガ國家ノ利益ト合致スルモノト認めタル後ニ非ザレバ之ヲ行フコトヲ得ズ

委員會ハ各國政府若ハ政治團體又ハ個人、組合若ハ會社ガ本法施行後發行シタルモノニシテ其ノ發行總額ガ十萬弗ヲ超ユル外國又ハ國內證券(合衆國政府又ハ合衆國政府若ハ其ノ代表者ガ未拂込株式ノ全部ヲ所有スル會社ノ發行セルモノヲ除ク)ノ全部又ハ一部ヲ合衆國內ニ於テ發賣シ又ハ購入若ハ引受ノ募集ヲ爲スコトガ國家ノ利益ト合致スルヤ否ヤニ付其

ノ定ムル所ニ依リ審査及決定ヲ爲スコトヲ要ス 無記名又ハ無額面株券ハ本條ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ額面百弗ノモノト看做ス 政府、政治團體、個人、組合又ハ會社ノ發行ニ係ル證券ニシテ本法施行ノ日ニ其ノ所有又ハ管理ニ屬スルモノハ本條ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ本法施行後發行セラレタルモノト看做ス

左ノ各號ニ掲グル事項ニ付テハ委員會ノ認可ヲ要セズ

- 一 日常取引ニ於テスル借入ニシテ資本ノ調達ヲ目的トセザルモノ
 - 二 本法施行ノ日ニ現存スル債務ノ更改又ハ辨濟
 - 三 發賣又ハ購入若ハ引受ノ募集ガ國家ノ利益ト合致スベキ旨委員會ニ依リ決定セラレタル證券ノ轉賣
- 本條ニ基ク委員會ノ作爲又ハ不作爲ハ當該證券ノ合法性、效力、價值又ハ安全ニ關スル委員會又ハ合衆國政府ノ承認タルノ效力ヲ有セズ

本條ニ於テ「證券」トハ株券、公債證書、債券、手形其ノ他ノ債務證書ヲ謂フ

第三條 聯邦準備銀行及國立銀行ハ再割引ノ爲又ハ當該銀行ノ貸附金ニ對スル副擔保トシテ前條ニ依ル審査ヲ受クベキ證券ヲ購入シ又ハ受領スルコトヲ得ズ但シ委員會ニ於テ當該證券ノ全部又ハ一部ノ發賣又ハ引受ノ募集ガ國家ノ利益ト一致スベキ旨ヲ認メタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 委員會ノ委員、職員又ハ使用人ハ本法ニ基ク職務ノ執行ニ際シ直接タルト間接タルトヲ問ハズ其ノ個人的利益又ハ其ノ直接若ハ間接利害關係ヲ有スル會社、組合其ノ他ノ團體ノ利益ニ關スル事項ノ決定ニ關與スルコトヲ得ズ

第五條 委員會ノ主タル事務所ハ之ヲコロンビア區ニ置ク但シ委員會ハ他ノ如何ナル場所ニ於テモ會合シ其ノ權限ヲ行使ス

ルコトヲ得 委員會ハ一名若ハ二名以上ノ委員ニ依リ又ハ委員會ノ選任スル代理人ニ依リ合衆國內ノ何レノ地ニ於テモ其ノ職務上必要ナル質問ヲ爲スコトヲ得

第六條 本法ニ依ル委員會ノ職務ヲ執行ヲ可能ナラシムル爲大藏省、通貨監査官、聯邦準備局、聯邦準備銀行及州際通商委員會ハ大統領ノ定ムル所ニ依リ其ノ入手スル報告、記録其ノ他ノ情報ヲ委員會ニ對シ秘密ニ提供スルコトヲ得

第七條 委員會ハ本法ニ基ク職務ノ執行ニ必要ナル職員及使用人ヲ任命スルコトヲ得

第八條 委員會ハ本法ニ基ク職務ノ執行ニ必要ナル經費ヲ支辨スルコトヲ得 當該經費ハ委員長ノ承認ヲ經タル明細書ノ提示アリタルトキ之ヲ許容シ且支給ス

第九條 故意ニ本法ノ規定又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ハ一萬弗以下ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ニ處シ又ハ兩刑ヲ併科ス 故意ニ右ノ犯罪ニ加功シタル者亦同ジ

第十條 委員會ハ議會ニ對シ每通常會期第一日ニ於テ收支ノ明細書、本法ニ基キ爲シタル審査及決定ニ關スル記録並ニ委員會ノ職員及使用人ノ氏名及報酬ニ付報告ヲ爲スベシ

第十一條 本法施行ノ爲必要ナル經費ハ之ヲ支出ス

戰時資源管理法案

四四

第一條 本法ハ戰爭又ハ戰時狀態及緊急狀態ヲ宣言スル法律又ハ議會ノ共同決議ニ對シ大統領裁可ヲ爲シタル日ヨリ其ノ效力ヲ生ズ

議會ノ緊急狀態終了宣言アル迄大統領ハ當該緊急狀態ヲシテ成功裡ニ終了セシムル爲政府ノ統制ヲ必要トスル物的資源、産業組織、勞務及取引關係ヲ決定布告シ且之ヲ統制スルコトヲ得

第二條 大統領ハ戰爭ニ際シ國防上必要ナル生産品、食糧、材料、物品、權利又ハ勞務ヲ指定シ其ノ賣買其ノ他ノ契約ニ付當該取引ガ政府ト行ハレ又ハ他ノ「者」ノ間ニ於テ行ハルト否トニ拘ラズ其ノ正當ナル最高、最低又ハ絕對價格及賃銀ヲ決定スルコトヲ得 當該價格及賃銀ハ大統領其ノ自由裁量ニ依リ隨時之ヲ變更又ハ修正スルコトヲ得 大統領ハ主要市場又ハ區域若ハ地域ニ基ク差額、地方別ノ價格及賃銀並ニ同一地方ニ於ケル異ナル用途ニ對スル價格及賃銀ヲ決定スルコトヲ得 大統領ハ生産品、食糧、材料、物品又ハ勞務ノ「生産」、製造、販賣、取引又ハ配給ニ付利益又ハ報酬ノ正當ナル率ヲ決定スルコトヲ得 右ノ率ハ大統領其ノ自由裁量ニ依リ隨時之ヲ變更又ハ修正スルコトヲ得

第三條 大統領ハ戰爭ニ際シ國防上必要ナル生産品、食糧、材料、物品、權利又ハ勞務ヲ指定シ其ノ製造、生産、現存若ハ將來ノ契約ノ履行、徵發若ハ注文ノ充足、輸送、配給又ハ引渡ニ關シ之ガ合衆國政府、其ノ他ノ「者」又ハ一般公衆ノ爲ニ行ハルト否トニ拘ラズ製造業者、生産業者、取引業者、配給業者、運送業者其ノ他ノ「者」ノ遵守スベキ優先順位

ヲ決定スルコトヲ得

第四條 大統領ハ戰爭ニ際シ國防上生産品、食糧、材料、物品、權利又ハ勞務ヲ保存シ又ハ之ガ充分ナル供給若ハ公平ナル分配ヲ確保スルノ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ製造業者、生産業者、取引業者、運送業者、配給業者其ノ他ノ「者」ニ對シ當該生産品、食糧、材料、物品、權利又ハ勞務ノ賣買、使用、運送、製造又ハ配給ヲ統制シ、制限シ又ハ禁止スルコトヲ得

第五條 大統領ハ戰爭ニ際シ合衆國政府ノ使用ニ供スル爲又ハ國防上必要ト認ムルトキハ何時ニテモ生産品、食糧、材料、物品、權利又ハ勞務ヲ購買シ其ノ正當ト認ムル條件ニ依リ之ヲ賣却シ又ハ處分スルコトヲ得 本條ニ依ル生産品、食糧、材料、物品、權利又ハ勞務ノ賣却又ハ處分ニ付合衆國政府ノ受領スル金額ハ大統領ノ自由裁量ニ依リ本條ノ規定ヲ實施スルニ必要ナル回轉資金ニ之ヲ繰入ルルコトヲ得

第六條 大統領ハ戰爭ニ際シ合衆國政府ノ使用ニ供スル爲又ハ國防上必要ト認ムルトキハ何時ニテモ生産品、食糧、材料又ハ物品ヲ收用シ其ノ正當ト認ムル條件ニ依リ之ヲ賣却シ又ハ處分スルコトヲ得 合衆國政府ハ右ノ收用ニ對シ大統領ノ決定スル正當ナル補償ヲ爲スコトヲ要ス 右ノ補償ヲ受クベキ「者」不服アルトキハ當該補償額ノ百分ノ七十五ノ支拂ヲ受ケ且合衆國政府ヲ被告トシテ正當ナル補償額ニ達スル迄右ノ百分ノ七十五ニ追加スベキ金額請求ノ訴ヲ當該生産品、食糧、材料又ハ物品ノ所在地ヲ管轄スル合衆國地方裁判所ニ提起スルコトヲ得 此ノ場合ニ於テハ訴訟法第二十四條第二十項ノ規定ヲ適用ス

本條ニ依ル生産品、食糧、材料又ハ物品ノ賣却又ハ處分ニ付合衆國政府ノ受領スル金額ハ大統領ノ自由裁量ニ依リ本條ノ

四五

目的達成ニ要スル回轉資金ニ之ヲ繰入ルルコトヲ得

第七條 大統領本法ノ目的達成ノ爲生産品、食糧、材料又ハ物品ノ「生産」、製造、販賣、貯藏、配給又ハ運送ノ業務ニ付免許制度ノ必要ヲ認メ其ノ旨布告シタルトキハ當該布告ニ於テ定メタル期日以後ニ於テハ本條ニ基キ發行セラレタル免許證ヲ有スル「者」ニ非ザレバ右ノ業務ニ從事シ又ハ之ヲ行フコトヲ得ズ

大統領ハ前項ノ免許證ヲ發行シ且免許權者ノ遵守スベキ會計及會計檢査ノ方法、宣誓又ハ證言ノ有無ニ拘ラズ免許權者ニ依ル報告書ノ提出並ニ大統領ノ正當ニ授權セル官吏ニ依ル免許權者ノ事業場ヘノ立入及檢査ニ付規定ヲ設クルコトヲ得
大統領ハ本法ニ基キ決定シタル價格、貨銀若ハ優先順位ヲ遵守セズ、合衆國政府ノ契約、收用若ハ要求ヲ拒ミ又ハ免許證ニ記載セル規定ニ違反シタル免許權者ニ對シ免許ヲ取消スコトヲ得

第八條 大統領ハ戰爭ニ際シ國防上必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ生産品、食糧、材料、物品又ハ勞務ノ浪費、破損、買占、投機及不當利益ノ防止ニ關スル規定ヲ定ムルコトヲ得

第九條 本法ニ依リ付與シタル權限ハ大統領ノ監督ニ從ヒ且大統領ノ定ムル期間中合衆國ノ各省、部局、機關若ハ官吏又ハ大統領ノ特ニ任命スル「者」之ヲ行使スルコトヲ得此ノ目的ノ爲大統領ハ必要ト認ムル政府機關ヲ設置シ且必要ナル規定ヲ定ムルコトヲ得 大統領ハ緊急狀態ノ存續中陸海軍ノ爲ニスル軍需品調達事務ノ再分類、再分配又ハ再割當ヲ爲スコトヲ得

第十條 本法ニ基キテ發シタル命令、告示又ハ免許ニシテ國務省ノ記録ノ一部トシテ保管シタルモノハ其ノ内容ヲ全世界ニ告知セルモノト看做シ一切ノ裁判所ハ其ノ旨告示スルコトヲ要ス

第十一條 大統領ハ戰爭ニ際シ國防上必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ左ニ掲グル合衆國法律ニ付之ガ政府ノ調達活動又ハ戰爭ノ遂行ヲ阻害スルト認ムル範圍内ニ於テ其ノ全部又ハ一部ノ施行ヲ停止スルコトヲ得

法
法
法

第十二條 本法ニ於テ「者」トハ個人、組合若ハ會社又ハ其ノ職員、代理人若ハ使用人ニシテ其ノ雇傭ノ範圍内ニ於テ責任ヲ有スル者ヲ謂フ

「生産」トハ製造業、農業、鑛業又ハ掘鑿作業ニ依リ材料及物品ヲ生産スルヲ謂フ

第十三條 本法ト牴觸スル法律ノ全部又ハ一部ハ其ノ牴觸スル範圍内ニ於テ本法施行期間中之ヲ停止ス

第十四條 本法施行上要求セラレタル義務ヲ履行セズ若ハ之ヲ怠リタル者、本法ノ規定若ハ本法ニ基キテ發スル命令、若ハ指揮ニ從ハザル者又ハ右ノ違反行爲ニ付幫助、教唆、勸告若ハ助力ヲ爲シタル者ハ——弗以下ノ罰金ニ處シ、自然人ナル場合ニ在リテハ一年以下ノ禁錮若ハ——弗以下ノ罰金ニ處シ又ハ兩刑ヲ併科ス

第十五條 本法ノ規定中管轄裁判所ニ於テ憲法違反又ハ無効ノ判決アルタルトキト雖モ當該判決ハ本法ノ爾餘ノ規定ニ影響ヲ及ボスコトナシ

戰時財産收用法案

四八

第一條 本法ハ戦争又ハ戰時狀態及緊急狀態ヲ宣言スル法律又ハ議會ノ共同決議ニ對シ大統領裁可ヲ爲シタル日ヨリ其ノ效力ヲ生ズ

緊急狀態ニ際シ大統領ハ國防上必要アリト認ムルトキハ合衆國ノ利益ノ爲ニ合衆國、其ノ屬地、**コロンビア**區、運河地帶、**ポルトリコ**又ハ**フィリピン**群島ニ存スル一切ノ動産ノ所有權若ハ使用權又ハ不動産上一切ノ權利ノ全部又ハ一部ヲ收用シ又ハ其ノ指定スル行政官廳ヲシテ收用セシムルコトヲ得

第二條 本法ニ依リ不動産ノ全部又ハ一部ヲ收用スル場合ニハ公告ニ依ル 公告ニハ不動産讓渡證書又ハ不動貸借契約書ノ記載事項、所有權取得ノ對價、收用ノ目的ガ負擔附財産權ナルカ又ハ一時的の使用權ナルトキハ其ノ旨及權利ノ範圍ヲ記載スベシ 右ノ權利ハ公告ノ時ニ於テ合衆國ニ歸屬ス

第三條 本法ニ依リ動産ノ所有權又ハ使用權ヲ收用スル場合ニハ收用令書ニ依ル 右ノ收用令書ニハ各場合ニ於ケル必要ナル事項及收用ノ目的ガ所有權ナリヤ一時的の使用權ナリヤヲ記載スベシ

收用令書ハ之ヲ當該動産ノ所有者又ハ其ノ代理人ニ送達ス 當該人ヲ發見スルコト能ハザルトキハ收用令書又ハ其ノ謄本ヲ當該動産ノ所在地ニ宛テ郵便ニ依リ發送スルコトヲ以テ足ル 收用令書ニ記載シタル當該動産ノ所有權若ハ使用權ハ收用令書ノ送達又ハ發送ノ時ニ於テ合衆國ニ歸屬ス

第四條 本法ニ依リ收用スベキ物ガ動産ナリヤ不動産ナリヤヲ決スルコト能ハズ又ハ困難ナルトキハ收用ハ第二條ノ公告若ハ第三條ノ收用令書又ハ其ノ兩方法ニ依ル

第五條 大統領ハ收用シタル物又ハ權利ニ對スル補償額ヲ決定シ又ハ行政長官ヲシテ決定セシム 補償金ノ受領者右ノ決定ニ對シ不服アルトキハ決定補償金額ノ百分ノ七十五ニ相當スル金額ヲ受ケ不足額ノ決定ニ關シ合衆國政府ヲ被告トシテ金額ノ如何ニ拘ラズ當該財産所在地ヲ管轄スル合衆國地方裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴訟法第二十四條第二十項ノ規定ヲ適用ス

收用ノ目的タル財産權ガ不確定ナルトキ、權利者數人アリテ持分ニ付争アルトキ、當該財産ガ擔保權若ハ留置權ノ目的タルトキ、小數者ノ權利ノ留保セラレタルトキ又ハ其ノ事由ニ因リ大統領若ハ行政長官ガ補償金額ノ百分ノ七十五ヲ交付スルコトヲ相當ナラズト認メタルトキハ當該動産所在地ヲ管轄スル合衆國地方裁判所ニ對シ合衆國ノ名ニ於テ當該財産ニ付權利ヲ主張シ又ハ利害關係ヲ有スト認メラルル總テノ者ヲ被告トスル召喚請求ヲ含ム反訴狀ヲ提出シ右ノ補償額ノ百分ノ七十五ニ關シ訴ヲ提起スルコトヲ得 右ノ訴提起ト同時ニ補償金額ノ百分ノ七十五ハ裁決ノ結果權利者タルベキ者ニ交付スル特別資金トシテ大藏省帳簿ニ之ヲ記入ス

前項ノ場合ニ於テ補償金額ノ百分ノ七十五ト當該財産又ハ權利ニ對スル補償請求金額トノ差額ノ請求ニ關スル總テノ不服申立ハ合一シテ之ヲ審理ス

收用ノ目的ガ動産ノ所有權又ハ使用權ナルトキハ當該動産ニ關スル調書ハ所有者又ハ前所有者ノ立會又ハ協力ノ下ニ之ヲ作成スベシ

四九

動産ノ使用權ノミヲ收用スル場合ニハ當該動産ノ價額及其ノ使用權ノ價額ヲ定ムベシ 動産又ハ不動産ノ使用權ヲ收用スル場合ニ於ケル補償金額ヲ決定スルニハ一ヶ月又ハ三ヶ月ヲ標準トシ補償金額ハ大統領又ハ行政長官ノ定ムル所ニ從ヒ一ヶ月又ハ三ヶ月毎ニ之ヲ交付ス

第六條 本法ハ不動産又ハ動産ノ收用ニ關スル從來ノ法令ノ規定ノ效力ヲ妨ゲズ 本法ハ財産ノ收用ニ關スル他ノ法令ニ對シ補充的效力ヲ有ス 不動産又ハ動産ノ購入經費ハ本法ノ規定ニ依ル財産ノ收用ニ對スル補償金ノ支拂ニ充當スルコトヲ得

第七條 大統領本法ノ規定ニ依リ收用シタル財産ガ不用ニ歸シタリト認ムルトキハ何時ニテモ當該動産、不動産又ハ權利ヲ拂下ゲ、賃貸シ又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ處分スルコトヲ得

第八條 本法ノ規定ニ依ル財産ノ收用ニ關シ合衆國政府ヲ相手方トシテ提起シタル訴訟手續ニ於テ當該財産ノ價額ガ争ハレタルトキハ當該財産ニ付前所有者ノ支出シタル費用ニ關スル證據ヲ提出セシメ當該財産ノ價額決定ニ際シ之ヲ斟酌スベシ

第九條 本法ノ規定ニ依ル財産ノ收用ニ關シテハ收用ノ日ヨリ六十日以内ニ議會ニ對シ報告ヲ爲スベシ

第十條 議會ノ宣言シタル緊急状態ノ存続期間中ハ本法ノ規定ニ依リ收用シタル不動産ニ對シ適用スベキ場合ヲ除クノ外改

正法第三百五十五條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第十一條 本法ニ於テ合衆國地方裁判所トハアラスカ地方裁判所、ハワイ地方裁判所、運河地帶地方裁判所、ホルトリコ地方裁判所、フィリッピン控訴院及コロンビア控訴院ヲ含ム 本法ノ規定ニ依リ收用スベキ財産ノ所在地ガコロンビア區

ナル場合ニ於テ當該財産ノ所有者ハ補償額ノ決定ニ關シコロンビア控訴院又ハ合衆國行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

海戰危險保險局法案

五二

第一條 本法ハ戰爭又ハ戰時狀態及緊急狀態ヲ宣言スル法律又ハ議會ノ共同決議ニ對シ大統領裁可ヲ爲シタル日ヨリ其ノ效力ヲ生ズ

大統領ハ合衆國ノ船舶業者及貿易業者ノ爲戰爭ニ因ル危險（戰爭危險）ヲ保險スル爲大藏省內ニ海戰危險保險局ヲ設置ス

第二條 海戰危險保險局ハ大藏長官ノ監督ヲ受ケ合衆國船舶、其ノ船賃及積荷並ニ合衆國トノ貿易ニ從事スル同盟國船舶又ハ其ノ積荷ニ關スル戰爭危險ニ基ク損害ニ付當該船舶、船舶業者又ハ貿易業者ニシテ相當ノ條件ノ下ニ保險業者ト戰時危險保險契約ヲ締結シ得ザル者ノ爲ニ保險ヲ爲ス

第三條 海戰危險保險局ハ大藏長官ノ認可ヲ得テ戰爭危險保險證券ヲ發行シ及船舶、其ノ船賃及積荷ニ關スル戰時危險保險料率ヲ定ムルコトヲ得保險料率ハ大藏長官事情ニ應ジ之ヲ變更スルコトヲ得保險料ハ國庫ニ歸屬ス

第四條 海戰危險保險局ハ大藏長官ノ認可ヲ得テ本法ノ施行ニ必要ナル規則ヲ定メ且目的ノ遂行ニ必要ナル限度ニ於テ保險業者ノ代理店ヲ使用スルコトヲ得 右ノ場合ニ於テ大藏省ハ當該代理店ニ對シ大藏長官ノ定ムル年率ニ依ル手数料ヲ交付ス保險契約者損害又ハ損害額ニ關シ海戰危險保險局ト意見一致セザルトキハ合衆國政府ヲ被告トシテ自己又ハ其ノ代理人ノ居住地ノ管轄合衆國地方裁判所ニ對シ訴ヲ提起スルコトヲ得

第五條 損害額ノ決定ニ關シ訴ノ提起ナキトキハ海戰危險保險局長ハ大藏長官ノ認可ヲ得テ保險契約者ニ對シ遲滯ナク損害額ヲ支拂フベシ

大藏長官ハ損害額ノ迅速ナル決定及其ノ告知ニ必要ナル措置ヲ爲スベシ

第六條 保險料及海難救助料ハ之ヲ損害額ノ支拂ニ充當スル爲國庫ニ歸屬セシム

第七條 大統領合衆國ノ戰爭危險保險ノ存續ヲ必要ナラズト認メタルトキハ何時ニテモ之ガ實施ヲ中止セシムルコトヲ得 右ノ中止處分ハ處分ノ時ニ於ケル係争中ノ保險ニ關スル事項ニ對シ影響ヲ及ボスコトナシ大統領ハ自由裁量ニ依リ右ノ係争中ノ保險ニ關スル事項ニ對シ終結決定ヲ爲ス爲必要ト認ムル期間海戰危險保險局ヲ存續セシムルコトヲ得

第八條 本法ニ基ク收入及支出ニ關スル明細書ハ每通常會期ノ始メニ之ヲ議會ニ提出スベシ

戰時貿易法案

第一條 本法ハ戰爭又ハ戰時狀態及緊急狀態ヲ宣言スル法律又ハ議會ノ共同決議ニ對シ大統領裁可ヲ爲シタル日ヨリ其ノ效力ヲ生ズ

本法ハ之ヲ戰時貿易法ト稱ス

第二條 本法ニ於テ「者」トハ個人、法人、組合、會社及合衆國若ハ州、コロンビア區、屬地又ハ外國ノ法律ニ依リ認めラレタル製造事業者ヲ謂フ

五三

本法ニ於テ「敵國人」トハ左ノ各號ニ掲グル者ヲ謂フ

一 國籍ノ如何ヲ問ハズ個人、組合其ノ他ノ團體ニシテ合衆國ト交戦中ノ國ノ領土（陸海軍ニ依リ占領セラレタル地域ヲ含ム）内ニ住所ヲ有スル者若ハ合衆國外ニ住所ヲ有シ右ノ領土内ニ於テ業務ヲ營ム者又ハ右ノ領土内ニ在ル會社若ハ合衆國以外ノ國ニ於テ設立セラレ右ノ領土内ニ於テ業務ヲ營ム會社

二 合衆國ト交戦中ノ國ノ政府、其ノ機關若ハ公共團體又ハ其ノ官吏若ハ吏員

三 合衆國ト交戦中ノ國ノ國民ニシテ其ノ住所ノ所在地又ハ業務ヲ營ム地ノ如何ニ拘ラズ大統領ガ合衆國ノ安全又ハ戰爭遂行上必要アリト認メ布告ヲ以テ「敵國人」ト認メタル合衆國市民ニ非ザル個人又ハ團體

本法ニ於テ「敵國ノ同盟國人」トハ左ノ各號ニ掲グル者ヲ謂フ

一 國籍ノ如何ヲ問ハズ個人、組合其ノ他ノ團體ニシテ合衆國ト交戦中ノ國ノ同盟國ノ領土（陸海軍ニ依リ占領セラレタル地域ヲ含ム）内ニ住所ヲ有スル者若ハ合衆國外ニ住所ヲ有シ右ノ領土内ニ於テ業務ヲ營ム者又ハ右ノ領土内ニ在ル會社若ハ合衆國以外ノ國ニ於テ設立セラレ右ノ領土内ニ於テ業務ヲ營ム會社

二 合衆國ト交戦中ノ國ノ同盟國ノ政府、其ノ機關若ハ公共團體又ハ其ノ官吏若ハ吏員

三 合衆國ト交戦中ノ國ノ同盟國ノ國民ニシテ其ノ住所ノ所在地又ハ業務ヲ營ム地ノ如何ニ拘ラズ大統領ガ合衆國ノ安全又ハ戰爭遂行上必要アリト認メ布告ヲ以テ「敵國ノ同盟國人」ト認メタル合衆國市民ニ非ザル個人又ハ團體

本法ニ於テ「合衆國」トハ大陸タルト島嶼タルトヲ問ハズ合衆國ノ管轄ニ屬シ又ハ合衆國陸海軍ニ依リ占領セラレタル總テノ陸地及水域ヲ謂フ

本法ニ於テ「取引」トハ左ノ各號ニ掲グルモノヲ謂フ

一 債務ノ支拂、履行、和解又ハ其ノ支拂若ハ履行ノ爲ニスル擔保ノ提供

二 有價證券ノ振出、引受、支拂、引受若ハ支拂ノ爲ニスル呈示又ハ裏書

三 契約若ハ協定ノ締結又ハ其ノ全部若ハ一部ノ履行

四 動産タルト不動産タルトヲ問ハズ財産ノ賣買、貸付、取引、交換、讓渡其ノ他ノ處分又ハ受領

五 方法ノ如何ヲ問ハズ營業ヲ營ミ又ハ商業上ノ通信若ハ交渉ヲ爲スコト

第三條 合衆國內ニ於ケル資源ノ最モ有效ナル利用ヲ確保シ以テ當該資源ニ對スル國內的及國際的需要ヲ充足スル爲議會ガ緊急状態ヲ宣言シタル場合ニ於テ合衆國ノ總テノ輸出入ニ付監督及統制ヲ行フベキ行政機關トシテ大統領ハ戰時貿易管理局ヲ設置ス

第四條 戰時貿易管理局ハ左ノ各號ニ掲グル事項ヲ爲スコトヲ得

一 總テノ輸出入ヲ統制シ之ガ爲硬貨、金銀地金及通貨ヲ除ク一切ノ物品ノ輸出入ニ對シ法律ト牴觸セザル條件ニ依リ特許ヲ與ヘ又ハ之ヲ拒否スルコト

二 輸入物品ノ公平ナル分配及最モ必要ナル生産物ノ爲ニスル其ノ消費ヲ確保スル爲ニ必要ナル措置ヲ講ズルコト

三 輸入制限及輸出貨物ノ優先順位ノ統制ニ依ル必需品ノ輸送ノ爲航洋船舶ノ保存ヲ圖ルコト

四 戰爭ニ因リ輸出入ニ影響ヲ蒙ルコトアルベキ第三國トノ互惠主義ヲ效果アラシムベキ措置ヲ講ズルコト

五 輸出制限及輸入ニ依ル必需品ノ獲得ニ依リ國內供給品ノ保存ヲ圖ルコト

六 敵國人若ハ敵國ノ同盟國人タルコト又ハ敵國人若ハ敵國ノ同盟國人ノ爲直接若ハ間接ニ取引ヲ營ミ若ハ當該取引ニ參

加セル「者」タルコトヲ知り又ハ之ヲ信ズベキ相當ノ理由アル「者」ヲ相手方トシ若ハ其ノ「者」ノ爲直接タルト間接タルトヲ問ハズ取引スルコトノ許可ヲ法律ト牴觸セザル條件ニ依リ付與シ、留保シ又ハ拒否スルコト

七 代理店又ハ支店其ノ他ヲ通ジ合衆國內ニ於テ營業ヲ營ム敵國人又ハ敵國ノ同盟國人（保險會社又ハ再保險會社ヲ除ク）ニシテ某年某日ヨリ三十日以内ニ取引ノ繼續ヲ出願セル者ニ對シ法律ト牴觸セザル條件ニ依リ一時的又ハ別ニ定ムル期間ヲ有スル許可ヲ付與シ、留保シ又ハ拒否スルコト

八 敵國人及敵國ノ同盟國人ノ開戰當時ニ於ケル名稱以外ノモノノ使用ヲ許可スルコト

第五條 戰時貿易管理局ハ大統領ノ承認ヲ經テ本法ノ目的達成ニ必要ナル規定ヲ定ムルコトヲ得

第六條 故意ニ本法ノ規定又ハ本法ニ基キテ發スル許可、若ハ命令ニ違反シタル者ハ五千弗以下ノ罰金ニ處シ、自然人ナル場合ニ於テハ四年以下ノ禁錮若ハ五千弗以下ノ罰金ニ處シ又ハ兩刑ヲ併科ス會社又ハ組合ノ職員、理事又ハ代理人ニシテ故意ニ右ノ犯罪ニ加功シタル者亦同ジ

戰時兵役義務法案

第一條 大統領ハ議會ガ宣言シタル國家ノ緊急狀態ノ存續期間中合衆國軍隊ヲ速ニ増員スルノ必要アリト認メタルトキハ所要ノ合衆國市民タル男子及合衆國市民タラントスル意思ヲ表示シタル男子ヲ本法ノ定ムル所ニ依リ兵籍ニ編入スル目的ヲ以テ登録シ、選擇シ及合衆國軍隊ニ編入スルコトヲ得

第二條 登録期日ニ於ケル年齢ガ滿十八歳以上ノ男子ハ本條ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外總テ大統領ノ定ムル規則ニ從ヒ之ヲ登録ス 登録ヲ要スル者ノ年齢、登録ノ期日及場所ニ付大統領ノ布告又ハ大統領ノ命令ニ依ル公告アリタルトキハ正規陸軍、海軍、海兵團、沿岸守備隊、護國軍、護國豫備軍、編制豫備軍、海軍豫備役及豫備海兵團ニ所屬スル將校、准士官、從軍書記、給料支拂係書記及兵卒並ニ合衆國陸軍士官學校生徒、合衆國海軍兵學校生徒、合衆國沿岸守備學校生徒、合衆國內ニ住所ヲ有スル合衆國市民ニ非ザル外交使節、外國大使館及公使館員、外國總領事、領事、副領事及領事代理ヲ除クノ外登録セラルベキ者ハ本法ノ定ムル所ニ依リ出頭シ、登録ヲ受クルコトヲ要ス但シ大統領ハ本法ニ定ムル最初ノ登録期日以後ニ於テ滿十八歳ニ達スベキ總テノ男子ニ對シ布告ヲ以テ定ムル期日ニ出頭シ、登録ヲ受クベキ旨ヲ命ズルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依ル登録者ハ軍務ニ服セシムル爲ニ登録セラレタル者ノ名簿ノ下欄ニ之ヲ數個ノ部類ニ分チテ記入ス

本條ニ依リ登録ヲ受クベキ者ニシテ一時其ノ住所ヲ去リタル者ノ登録ニ付テハ大統領ノ定ムル所ニ依ル登録ヲ受ケタル者ハ本法ニ於テ免除又ハ猶豫セラレタル場合ヲ除クノ外總テ合衆國軍隊ニ之ヲ編入ス何人ヲ問ハズ登録ヲ受クベキ旨ノ大統領ノ布告又ハ其ノ命令ニ依ル公告アリタルトキハ本法ニ依ル要求ニ付通告ヲ受ケタルモノト看做ス

登録ノ爲ノ出頭又ハ登録ヲ受クルコトヲ怠リ又ハ拒否シタル者ハ管轄合衆國地方裁判所ニ於テ——年以下ノ禁錮ニ處シ且判決ニ基キ適當ノ時期ニ之ヲ登録ス

登録ノ免除ハ其ノ事由ノ消滅シタルトキハ其ノ効力ヲ失フ

第三條 本法ニ基キ合衆國軍隊ニ召集又ハ編入セラレタル者ハ其ノ召集又ハ編入ノ日ヨリ現行法ニ依リ現役又ハ豫備役トシテ合衆國軍務ニ引續キ服役スルコトヲ要セザル者ニ對シ適用セラルル範圍内ニ於テ其ノ指定セラレタル兵科ニ關スル法律及規則ニ從フコトヲ要ス 服務期間ハ大統領ノ緊急狀態終了宣言アリタル時ヨリ六ヶ月ヲ經テ終了ス但シ其ノ終了ノ前ニ於テ服務ヲ解除スルコトヲ得

第四條 本條ニ規定スル選擇徵集ハ男子タル市民並ニフィリッピン群島、グアム及サモア島ヲ含ム合衆國及其ノ屬地内ニ住所ヲ有スル敵國人ニ非ザル男子ニシテ市民タラントスル意思ヲ表示シタル者ニシテ登録期日ニ於ケル年齢方滿十八歳以上四十五歳未滿ノ者ニ對シ合衆國軍隊ニ服務スルノ義務(兵役義務)ヲ課スルモノトス但シ本條ノ規定ハ右ノ意思表示ヲ爲サザル外國人ノ服役志願ヲ妨グルコトナシ

合衆國市民タラントスル意思ヲ表示シタル中立國ノ市民又ハ臣民ハ大統領ノ定ムル所ニ依リ右ノ意思表示ヲ取消シタル場

合ニ限リ兵役義務ヲ免除ス合衆國市民タラントスル意思ヲ取消シタル者ハ以後其ノ者ノ爲ス合衆國市民タラントスル意思表示ハ之ヲ無効トシ永久ニ合衆國市民タルコトヲ得ズ

第五條 合衆國軍隊ニ召集又ハ編入セラレタル者ニ對シテハ何等ノ獎勵金ヲ支給セズ但シ現行法ノ認ムル被服費及召集手當ハ此ノ限ニ在ラズ兵役義務者ハ代人ヲ立ツルコトヲ得ズ 代人ハ之ヲ合衆國軍隊ニ召集又ハ編入スルコトナシ 兵役義務者ハ金錢其ノ他ノ財物ノ提供ニ依リ兵役ヲ免レ又ハ服務期間終了前ニ於テ兵役ヨリ解除セララルコトナシ

第六條 合衆國副大統領並ニ合衆國、各州、屬地及**コロンビア**區ニ於ケル立法部、行政部及司法部ノ職員ハ本條ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ在職期間中兵役ヲ猶豫ス 大統領ハ其ノ定ムル所ニ依リ左ノ各號ニ掲グル業務ニ從事スル登録者ヲシテ繼續シテ之ニ從事セシムルコトガ國ノ利益ノ爲必要ト認ムルトキハ其ノ兵役ヲ猶豫スルコトヲ得

一 聯邦及各州下級官吏

二 聯邦及各州使用人

三 郡及市ノ吏員及使用人

四 水先案内人

五 農業ヲ含ム産業其ノ他ノ業務ニ從事スル者ニシテ國ノ利益ヲ維持スルニ必要ト認メラレタル者

六 法令ニ基キ又ハ正當ニ任命セラレタル僧侶

大統領ハ其ノ定ムル所ニ依リ登録者ニシテ扶養義務ヲ有シ猶豫ヲ必要トスル者及心身障害者ニ對シ兵役ヲ猶豫スルコトヲ得 兵役猶豫ハ其ノ事由ノ消滅シタルトキハ其ノ効力ヲ失フ

正當ニ承認セラレ且教徒ニ對シ形式ノ如何ニ拘ラズ戰爭ニ參加スルコトヲ禁ズルコトヲ信條又ハ原則トスル宗派ノ教徒ニシテ右ノ信仰ヲ遵奉スル旨ヲ大統領ノ定ムル所ニ依リ確認セラレタル者ハ戰鬥員トシテ合衆國軍隊ニ服務スベキコトヲ要求セラレ又ハ強制セラルルコトナシ但シ大統領ガ宣言スル非戰鬥員タルノ資格ニ於テスル服務ヲ免除セラルルコトナシ

第七條 各州、屬地若ハ**コロンビア**區又ハ其ノ行政區劃ニ對スル所要人員ノ割當ハ兵役ニ服スベキ者トシテ人員ヲ選出スル爲大統領ノ決定シタル部ニ屬スル登録者ノ實數ニ比例シテ之ヲ決定ス但シ右ノ決定アリタルトキハ各州、屬地及**コロンビア**區ハ少クトモ其ノ居住者中大統領ノ定ムル期日ニ於テ現ニ兵役ニ服スル者ノ數ニ相當スル人員ヲ割當テラルルモノトシ爾後ノ割當ニ於テ調整ヲ爲スモノトス 大統領ハ緊急狀態急迫シ遲延ニ因リ國ノ利益ヲ危殆ナラシムルノ虞アリト認ムルトキハ其ノ定ムル所ニ依リ算定シタル兵役義務者ヲ選出スベキ部ニ屬スル登録者ノ推定數ニ基キ最初ノ召集人員ノ割當ヲ爲スコトヲ得但シ右ノ登録者ノ實數決定セラレタルトキハ爾後ノ割當ニ於テ調整ヲ爲スモノトス

第八條 大統領ハ其ノ自由裁量ニ依リ國ノ利益ノ爲必要ト認ムルトキハ登録ヲ要スル者ニシテ其ノ所屬又ハ住所ノ如何ニ拘ラズ兵役義務アル者ヲ直ニ軍隊ニ召集スルコトヲ得

第九條 大統領ハ本法施行ニ必要ナル機關ヲ設置スルコトヲ得 登録者ノ所屬決定ニ關スル訴訟裁決機關ハ之ヲ設置スルコトヲ要ス機關ノ決定ハ大統領ノ定ムル所ニ依リ修正シ又ハ無効トスル場合ヲ除クノ外最終的ノモノトス 大統領ハ職員ノ報酬ヲ定メ及本法ノ施行ニ必要ナル規則ヲ制定スルコトヲ得 大統領ハ本法施行ノ爲合衆國、各州、屬地及**コロンビア**區並ニ其ノ行政區劃ノ各省、官吏又ハ吏員ヲ利用スルコトヲ得 合衆國、各州、屬地及**コロンビア**區並ニ其ノ行政區劃ノ官吏及吏員並ニ本法施行ニ必要ナル職務ヲ遂行スル爲大統領ノ定ムル所ニ依リ任命セラレタル者ハ總テ大統領ノ命ズル

職務ヲ遂行スルコトヲ要ス 官吏及吏員並ニ右ノ任命ヲ受ケタル者ハ總テ本法施行上大統領ノ命ジタル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス 本法ノ施行ニ關シテハ自發的ニ勤務ヲ申出ヅルコトヲ得 大統領ハ廣告又ハ正式契約ノ有無ニ拘ラズ其ノ指定スル公設又ハ私設ノ印刷所又ハ製本所ニ於テ本法ノ施行ニ必要ナル印刷、製本及白地本ノ調製ヲ爲サシムルコトヲ得 本法ノ施行ニ必要ナル通信ハ官廳用特別取扱郵便ニ依リ之ヲ爲ス

第十條 左ノ各號ニ掲グル者ハ管轄合衆國地方裁判所ニ於テ一年以下ノ禁錮及一弗以下ノ罰金ニ處シ陸軍又ハ海軍ノ法律ニ依ル場合ニ在リテハ軍法會議ニ於テ審理判決ス

一 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ヲ施行スベキ職務ニ從事スル者ニシテ當該職務ヲ執行セズ又ハ之ヲ怠タリタル者
二 前號ノ職務ニ從事スル者又ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ基ク權限ヲ有シ且行使スル者ニシテ虛偽若ハ不正ノ登録、所屬決定、身體検査、免除、猶豫、編入若ハ兵籍登録ヲ爲シ又ハ之ニ加功シタル者
三 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル勤務ニ關スル自己又ハ他人ノ資格又ハ義務ニ付虛偽ノ陳述若ハ證明ヲ爲シ又ハ之ニ加功シタル者

四 兵役若ハ本法ニ基ク要求ヲ回避シ又ハ他人ニ對シ其ノ回避ヲ勸告、幫助若ハ教唆ヲ爲シタル者

五 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ要求セラレタル職務ヲ完全ニ執行セザル者又ハ之ヲ怠タリタル者

兵役義務ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ申告ヲ爲サザル登録者ノ審理ニ付テハ陸軍及海軍軍法會議ハ競合的管轄權ヲ有ス

本法ノ罪ニ付テハ他ニ先チ之ヲ審理スベシ

第十一條 本法ノ規定ハ其ノ目的及條文ヲ支配スル立法精神ニ適合スル様自由ニ之ヲ解釋スベキモノニシテ本法又ハ本法ニ

基ク命令若ハ規則中ニ存スル技術的缺陷ハ國家ノ要求ニ鑑ミ本法全般ノ正當ナル目的ニ依リ之ヲ補充スルコトヲ要ス、
第十二條 兵役義務ノ免除其ノ他ノ制限ニ付規定ヲ設ケタル法律ノ全部若ハ一部又ハ本法ノ規定ト牴觸スル法律ノ全部若ハ一部ハ緊急事態ノ存續中其ノ施行ヲ停止ス、

戰時金融會社法案

第一條 本法ハ戰爭又ハ戰時狀態及緊急狀態ヲ宣言スル法律又ハ議會ノ共同決議ニ對シ大統領裁可ヲ爲シタル日ヨリ其ノ效力ヲ生ズ

本法ノ定ムル所ニ依リ「戰時金融會社」ヲ設立ス 其ノ存續期間ハ十年トス但シ大統領ノ宣言ヲ以テ定ムル戰爭終了ノ日ヨリ六ヶ月ヲ經過シタルトキハ會社ハ其ノ清算及現務ノ終了ノ爲必要アル場合ヲ除クノ外本法ニ依リ付與セラレタル權限ヲ行フコトヲ得ズ

第二條 戰時金融會社ノ業務ハ取締役會之ヲ執行ス 取締役會ハ會長タル大藏長官及上院ノ意見ヲ聽キ其ノ同意ヲ得テ大統領ノ指名スル四名ノ取締役ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 前條ニ規定スル四名ノ取締役ノ年俸ハ一万二千弗トス但シ合衆國政府ヨリ俸給又ハ報酬ヲ受クル取締役ハ其ノ俸給又ハ報酬ト合シテ年額一萬二千弗ヲ超ユル年俸ヲ受クルコトヲ得ズ取締役及職員其ノ他ノ使用人ハ其ノ個人的利益又ハ其ノ直接若ハ間接利害關係ヲ有スル會社、組合其ノ他ノ團體ノ利益ニ關スル事項ノ決定ニ關與スルコトヲ得ズ

第四條 戰時金融會社ノ株式資本ハ五億弗トシ合衆國政府其ノ全額ヲ引受クルモノトス引受ハ適當ノ時機ニ於テ取締役會員ノ五分ノ三ノ同意ヲ得且大藏長官ノ認可ヲ經ルコトヲ要ス國庫金ニシテ他ニ充當セラレザルモノノ中ヨリ五億弗ヲ引受ノ爲充當ス 合衆國政府拂込ヲ爲シタルトキハ戰時金融會社ハ大藏長官ニ受領書ヲ交付ス受領書ハ株主タルコトヲ證明スル

第五條 戰時金融會社ノ本店ハコロンビア區ニ置ク合衆國內各都市ニ代理又ハ支店ヲ置クコトヲ得代理店又ハ支店ノ設置ハ取締役會ノ定ムル所ニ依ル

第六條 戰時金融會社ハ左ノ各號ニ掲グル事項ヲ爲スコトヲ得

- 一 社印ノ決定、變更及使用
- 二 契約ノ締結
- 三 業務執行上必要ナル動産ノ購入、賃借及處分
- 四 原告トナリ又ハ被告トナルコト
- 五 管轄裁判所ニ於テ州又ハ聯邦ヲ訴ヘ又ハ防禦スルコト
- 六 取締役會ニ依リ業務執行ノ爲必要ナル職員其ノ他ノ使用人ヲ任命シ其ノ報酬、任務及任務違反ニ對スル懲戒ヲ規定シ並ニ何時ニテモ之ヲ解任スルコト
- 七 大藏長官ノ認可ヲ經テ取締役會ニ依リ業務ノ執行及法律ニ基ク特權ノ行使ノ態様並ニ職員ノ職務權限ニ關スル細則ヲ定メ、變更シ及廢止スルコト

第七條 戰時金融會社ハ左ノ各號ニ掲グルモノニ對シ本法ノ規定ニ違反セザル條件ヲ以テ五年以内ニ於テ貸付ヲ爲スコトヲ得

- 一 合衆國內ノ銀行、銀行業者又ハ信託會社ニシテ戰爭遂行ノ爲必要ニシテ其ノ旨ノ證明書ヲ有スル事業ヲ合衆國內ニ於

テ營ム個人、會社若ハ組合ニ對シ某年某日以後爲シタル貸付ノ償還ヲ受ケザルモノ但シ貸付額ハ銀行、銀行業者又ハ信託會社ノ爲シタル貸付額ノ百分ノ七十五以下トス

二 合衆國內ノ銀行、銀行業者又ハ信託會社ニシテ某年某日以後前號ニ定ムル會社若ハ組合ノ社債若ハ其ノ他ノ證券ヲ購入シ因テ之ニ直接若ハ間接財政上ノ援助ヲ與ヘタルモノ但シ貸付額ハ取締役會ノ評價決定シタル社債若ハ其ノ他ノ證券ノ貸付當時ニ於ケル價格ノ百分ノ七十五以下トス

貸付ハ總テ手形、社債其ノ他ノ證券ヲ擔保トスル銀行、銀行業者又ハ信託會社ノ約束手形ヲ擔保トシテ之ヲ爲ス約束手形ハ其ノ擔保シタル手形、社債其ノ他ノ證券ノ擔保トシテ銀行、銀行業者又ハ信託會社ノ有スル擔保ト共ニ貸付ノ基礎ト爲スモノトス

第一項ノ場合ニ於テ銀行、銀行業者又ハ信託會社ガ前項ニ規定スル擔保ノ外取締役會ノ定ムル種類ニ屬シ且貸付當時ニ於テ貸付總額ノ百分ノ三十三以上ニ相當スル價值(取締役會ガ評價決定ス)ヲ有スル副擔保ヲ提供スルトキハ十割迄貸付タルコトヲ得 會社ハ何時ニテモ擔保ノ追加ヲ請求スルコトヲ得

第八條 戰爭遂行上又ハ公益上必要アリト認ムルトキハ戰時金融會社ハ本法ノ規定ニ違反セザル條件ヲ以テ一年以内ニ於テ預金ヲ受ケ入ルル合衆國內ノ貯蓄銀行、銀行施設若ハ信託會社又ハ合衆國內ノ住宅組合ニ對シ金融施設ノ約束手形ヲ擔保トシテ隨時貸付ヲ爲スコトヲ得但シ約束手形ハ取締役會ノ定ムル種類ニ屬シ且貸付當時ニ於テ貸付總額ノ百分ノ三十三以上ニ相當スル價值(取締役會ガ評價決定ス)ヲ有スル擔保ヲ有スルコトヲ要ス 貸付利率ハ金融施設ノ存スル地方ノ聯邦準備銀行ニ於ケル貸付當時ノ九十日商業手形ノ割引率ヨリ年一分以上高率タルコトヲ要ス但シ貸付前六ヶ月間ニ金融施

設ノ爲シタル貸付及投資ニ對スル平均利率ヨリ高率ナルコトヲ得ズ當該平均利率ガ九十日商業手形ノ割引率ヨリ低率ナルトキハ割引率ト同率トス 會社ハ何時ニテモ擔保ノ追加ヲ請求スルコトヲ得

第九條 戰時金融會社ハ前二條ニ定ムル場合ノ外合衆國內ニ於テ戰爭遂行ノ爲ニ必要ナル事業ヲ營ム個人、會社又ハ組合ニ對シ當該事業經營ノ爲取締役會ノ定ムル所ニ依リ五年以内ニ於テ直接貸付ヲ爲スコトヲ得但シ取締役會ニ於テ當該個人、會社又ハ組合ガ銀行團若ハ一般公衆ヨリ相當ナル條件ヲ以テ資金ヲ調達スルコト能ハザルモノト認メタル場合ニ限ル 本條ニ依ル貸付ノ總額ハ會社ノ公稱資本ト資金全額拂込ノ場合ニ於テ發行シ得ル社債額トノ合計額ノ千分ノ百二十五ヲ超過スルコトヲ得ズ 貸付ハ取締役會ノ定ムル種類ニ屬シ且貸付額ノ百分ノ百二十五以上(大統領ノ管理スル鐵道ノ建設又ハ改良ノ爲ニ貸付ヲ爲ス場合ヲ除ク)ニ相當スル價值(取締役會ガ評價決定ス)ヲ有スル擔保ヲ要ス會社ハ何時ニテモ擔保ノ追加ヲ請求スルコトヲ得 貸付ニ對スル利率ハ借主ノ存スル地ノ聯邦準備銀行ニ於ケル九十日商業手形ノ貸付當時ノ割引率ヨリ年一分以上高率ナルコトヲ要ス

第十條 本法ノ規定ニ依リ個人、會社又ハ組合ニ對シテ爲ス貸付ハ各個人、會社又ハ組合一付戰時金融會社ノ公稱資本ノ十分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ズ但シ本條ノ規定ハ大統領ノ管理スル鐵道ノ建設又ハ改良ノ爲ニ爲ス貸付ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十一條 戰時金融會社ハ取締役會ガ大藏長官ノ認可ヲ經テ隨時定ムル範圍内ニ於テ某年某日後發行シ又ハ借換ヘタル合衆國債ノ應募、取得、購入、賣却又ハ取引ヲ爲スコトヲ得

第十二條 戰時金融會社ハ拂込資本金額ノ六倍ヲ限度トシテ一年以上五年以下ノ滿期ヲ有スル社債ヲ發行スルコトヲ得社債

ハ取締役會ノ定ムル所ニ依リ滿期前何時ニテモ償還スルコトヲ得 社債ノ利率ハ取締役會大藏長官ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム 會社財産ハ社債ニ對シ第一順位ニシテ最高ノ包括擔保トシ他ノ債務ニ付テハ之ヲ擔保ト爲スコトヲ得ズ社債ハ本法ニ依リ許可セラルル貸付トシテ額面以上ニテ發行シ又ハ取締役會大藏長官ノ認可ヲ經テ定ムル價格ヲ以テ一般ニ賣出シ又ハ個人、會社若ハ組合ニ對シ賣渡スコトヲ得

第十三條 聯邦準備銀行ハ聯邦準備法ノ定ムル滿期制限及聯邦準備局ノ定ムル規則ニ從ヒ前條ノ社債ヲ擔保トスル加盟銀行ノ直接債務證券ヲ割引シ及前條ノ社債ヲ擔保トシ且加盟銀行ノ裏書ヲ有スル割引適格手形ヲ再割引スルコトヲ得割引率又ハ再割引率ハ滿期ノ等シキ割引適格商業手形ノ割引率ヨリ一分以上高率タルコトヲ要ス

聯邦準備銀行ハ流通力ナキ合衆國ノ國債其ノ他ノ證券ヲ擔保トスル證券又ハ手形ノ使用ヲ許サル場合ニ於テ聯邦準備局ノ認可ヲ經テ前項ニ依リ取得シタル證券又ハ手形ヲ使用スルコトヲ得但シ當該證券又ハ手形ヲ保證トシテ聯邦準備銀行券ヲ發行スルトキハ聯邦準備局ハ當該銀行券ニ對シテハ右ノ特別發行稅ハ之ヲ課セザルコトヲ得流通力ヲ有セザル合衆國ノ國債其ノ他ノ證券ノ聯邦準備銀行ニ依ル取得及證券若ハ手形ヲ保證トシテ發行スル聯邦準備銀行券ニ關スル本法ノ規定ニ抵觸セザル他ノ法律ノ規定ハ適用シ得ル限り戰時金融會社證券ヲ擔保トスル證券又ハ手形ノ取得及此ノ證券又ハ手形ヲ保證トシテ發行スル聯邦準備銀行券ニ之ヲ適用ス

第十四條 戰時金融會社ハ本法ノ規定ニ依ル事業ノ開始ニ付大統領ノ許可ヲ受クル迄設立準備行爲以外ノ行爲ヲ爲シ又ハ他法ニ基ク權限ヲ行フコトヲ得ズ

第十五條 戰時金融會社ノ純益ハ營業ノ爲必要ナルモノヲ除クノ外本法ノ定ムル所ニ依リ清算ヲ行フ迄準備金トシテ積立ツ

ベシ 準備金ハ取締役會ノ指揮ニ從ヒ大藏長官ノ認可ヲ經テ某年某日後發行シ又ハ借替ハタル合衆國國債ニ投資シ、同様ノ手續ヲ經テ聯邦準備制度ノ加盟銀行若ハ聯邦準備銀行ニ預金シ又ハ戰時金融會社ノ發行セル社債ノ購入若ハ消却ノ爲他ノ基金ト同様ニ隨時之ヲ使用スルコトヲ得 聯邦準備銀行ハ本法ニ依リ付與セラレタル戰時金融會社ノ權限ノ一般的行使ニ關シ戰時金融會社ノ財務代理人トシテ受諾者タルノ行爲ヲ爲スコトヲ得取締役會ハ大統領ノ宣言ヲ以テ定ムル戰爭終了日後六ヶ月内ニ會社財産ヲ清算シ及殘務ヲ結了スベシ但シ戰爭終了日以前ト雖モ隨時自由裁量ニ依リ會社ノ取得シタル擔保又ハ其ノ他ノ財産ヲ處分スルコトヲ得

戰時金融會社ノ全債務ヲ辨濟シタル後存スル殘額ハ雜收入トシテ國庫ニ歸屬シ此ノ時ニ於テ會社ハ解散ス

第十六條 戰時金融會社ノ發行シタル社債ノ元本及利息ニハ合衆國、州、屬地又ハ地方徵稅官廳ノ課スル總テノ租稅ヲ免除ス但シ(一)遺產稅及相續稅(二)超過所得稅タル累進超過所得稅、超過所得稅及戰時利得稅ニシテ合衆國政府方個人、組合又ハ會社ノ所得又ハ利得ニ對シ課スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ 個人、組合又ハ會社ノ所有スル元本總額五千弗ヲ超エザル社債ノ利子ニ付テハ前記(二)ニ掲グル租稅ヲ免除ス 戰時金融會社ノ特權、資本、準備金及剩餘金並ニ之ヨリ生ズル所得ニ付テハ合衆國、州、屬地又ハ地方徵稅官廳ノ課スル一切ノ租稅ヲ免除ス但シ不動産ニ付テハ其ノ價格ニ從ヒ一般ノ不動産ト同様ニ州稅、郡稅及市町村稅ヲ課ス

第十七條 合衆國政府ハ戰時金融會社ノ發行シ又ハ負擔スル社債若ハ其ノ他ノ債務又ハ其ノ利子ノ支拂ニ付責ニ任ゼズ戰時金融會社ノ一切ノ作爲又ハ不作爲ニ付亦同ジ

第十八條 自己又ハ他人、會社若ハ組合ノ爲本法ニ依ル貸付ヲ受クル目的ヲ以テ虛偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ禁錮

若ハ一萬弗以下ノ罰金ニ處シ又ハ兩刑ヲ併科ス

貸付ニ對スル擔保ヲ故意ニ高值評價シタル者ハ二年以下ノ禁錮若ハ千弗以下ノ罰金ニ處シ又ハ兩刑ヲ併科ス

左ノ各號ニ掲グル者ハ五年以下ノ禁錮若ハ一萬弗以下ノ罰金ニ處シ又ハ兩刑ヲ併科ス

一 戰時金融會社ノ社債又ハ利札ヲ偽造シタル者
二 偽造シタル社債、利札又ハ手形ヲ戰時金融會社ノ發行シタル物トシテ交付若ハ行使シ又ハ交付若ハ行使セントスル者

三 戰時金融會社ノ社債、利札又ハ手形ヲ變造シタル者

四 變造シタル戰時金融會社ノ社債、利札又ハ手形ヲ眞實ナル物トシテ交付シ又ハ行使シタル者

職務上戰時金融會社ト關係ヲ有スル者左ノ各號ニ掲グル行爲ヲ爲シタルトキハ五年以下ノ禁錮若ハ一萬弗以下ノ罰金ニ處シ又ハ兩刑ヲ併科ス

一 戰時金融會社ノ金錢、基金又ハ有價證券ヲ橫領シ又ハ故意ニ濫用スルコト

二 戰時金融會社又ハ政治團體、法人若ハ個人ニ對シ詐欺行爲ヲ爲シ又ハ戰時金融會社職員ヲ欺ク目的ヲ以テ

(一) 戰時金融會社ノ帳簿、報告書又ハ計算書ニ虛偽ノ記入ヲ爲スコト

(二) 取締役ノ許可ナクシテ爲替手形ノ振出若ハ手形、社債券、質物ノ讓渡ヲ爲シ又ハ爲サシムルコト

大藏長官ハ大藏省監察部ヲ指揮命令シテ本條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ捜査シ、逮捕シ及管轄合衆國裁判所ニ引渡サシムルコトヲ得

21-21

第十九條 戰時金融會社ハ四半期毎ニ直前四半期ノ各月一日現在ニ於ケル左ノ各號ニ掲グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ上院及下院ノ各事務局ニ提出スベシ

- 一 拂込資本金額
 - 二 社債發行總額
 - 三 未償還社債額
 - 四 第七條乃至第九條ノ規定ニ依リ爲シタル貸付總額
 - 五 第七條乃至第九條ノ規定ニ依リ取得シタル擔保ノ種類及額
 - 六 第七條乃至第九條ノ規定ニ依リ爲シタル貸付ノ中償還ヲ受ケザル額
 - 七 上院又ハ下院ヨリ報告ヲ求メラレタル事項
- 戰時金融會社ハ議會ニ對シ每通常會期第一日ニ於テ收支ニ付詳細ナル報告ヲ爲スベシ

終